

「現在求められている教育」を 関連させた学習指導



平成 22 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

はじめに

高度に発達した科学技術を背景として、人や物をつなぐネットワークはより複雑なものとなり、現代社会を形づくっています。このような時代を生き抜くために「生きる力」が不可欠であることは、平成 20 年 1 月の中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」にも示されたとおりです。

答申を踏まえ、平成 20 年 3 月に告示された新しい幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領の中で、「生きる力」をはぐくむという理念が継承され、今年度から新学習指導要領の移行期に入りました。

神奈川県立総合教育センターでは、これまで、キャリア教育や読解力向上に関する教育、情報教育等、教科を横断する幾つかの教育について研究を進め、それぞれのテーマについて基本的な考え方や具体的な指導例等を示してまいりました。しかし、「変化の激しい社会」にあって、教育課題は多様化し、その一つひとつにじっくり取り組むことが難しい現状も否定できません。

このような状況を受け、これらの教育課題を個々に取り組むだけでなく、幾つかの教育を関連させた学習指導について研究を進め、その基本的な考え方と実践事例を本冊子にまとめました。

未来を担う子どもたちが「生きる力」を身に付けて豊かに生きることができるよう、小・中学校における教育実践の一層の充実と発展に向けて本冊子をご活用いただければ幸いです。

平成 22 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

所 長 安 藤 正 幸

目 次

はじめに

目次

本冊子の目的と構成

第1章 研究の背景と目的等について	- - -	1
1 研究の背景	- - -	1
2 研究の目的	- - -	3
3 本研究の進め方	- - -	4
参考 学習活動の例	- - -	7
参考 「かながわ教育ビジョン」	- - -	8
第2章 「現在求められている教育」の紹介	- - -	9
1 情報教育	- - -	10
2 環境教育	- - -	12
3 キャリア教育	- - -	14
4 シチズンシップ教育	- - -	16
5 読解力向上に関する教育	- - -	18
それぞれの教育で育成したい能力(力)等	- - -	20

第3章 実践事例の紹介	- - -	23
事例紹介ページの構成	- - -	24
事例A 小学校 国語 第1学年	- - -	26
事例B 小学校 理科 第4学年	- - -	30
事例C 小学校 理科 第5学年	- - -	36
事例D 小学校 理科 第5学年	- - -	40
事例E 中学校 国語 第2学年	- - -	44
事例F 中学校 社会 第3学年	- - -	48
第4章 研究のまとめ	- - -	53
1 実践を通して得られたこと	- - -	53
2 今後の各学校での実践に向けて	- - -	57
第5章 資料編	- - -	58
学習指導案の様式	- - -	58
学習指導案の例	- - -	60
引用・参考文献	- - -	65
作成関係者		

本冊子の目的と構成

本冊子は、情報教育・環境教育・キャリア教育等の「現在求められている教育」を関連させた単元の指導計画を作成し、それに基づいて実践した事例を紹介したものです。通常の教科等において、実践できる指導計画を作成することを目指しています。

研究の目的と進め方を紹介

「現在求められている教育」の紹介

- ・ 情報教育
- ・ 環境教育
- ・ キャリア教育
- ・ シチズンシップ教育
- ・ 読解力向上に関する教育

実践事例（6事例）を紹介

研究のまとめ

本冊子では、情報教育・環境教育・キャリア教育等のことを「現在求められている教育」と呼ぶことにします。

第1章 研究の背景と目的等について

1 研究の背景

急速な社会の変化に伴い、児童・生徒を取り巻く生活環境は大きく変化し、教育課題も多様化しています。そのため、教育界には諸課題を解決するための教育が求められています。

平成 18 年 12 月に約 60 年ぶりに教育基本法が改正され、その改正を踏まえて、平成 19 年 6 月に学校教育法が公布されました。同法第 30 条第 2 項には、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」と定められており、「学力の重要な要素」は、
基礎的な知識及び技能、 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力、 主体的に学習に取り組む態度（学習意欲）であることが、明確に示されました。

平成 20 年 1 月には、中央教育審議会による「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」(以下、「H20 答申」という。)が公表され、「教育内容に関する主な改善事項」として、言語活動の充実、理数教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、道徳教育の充実、体験活動の充実、小学校段階における外国語活動、社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項の 7 点が挙げられています。また、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」の中には、「情報教育、環境教育、ものづくり、キャリア教育、食育、安全教育、心身の成長発達についての正しい理解」について述べられており、新学習指導要領の下でも、引き続き様々な教育課題に対応する教育実践が求められています。

神奈川県教育委員会は、平成19年8月に「明日のかながわを担う人づくり」を進めるため、教育の総合的な指針となる「かながわ教育ビジョン」を策定しました。この「かながわ教育ビジョン」では、夢や希望の実現に向けた自分づくりを支援していく営みを「人づくり」ととらえ、「心ふれあう しなやかな人づくり」を提唱しています。

また、今日の教育課題を解決していくために、特に集中的・横断的に進めていく必要のある「重点的な取組み」として、「心ふれあう教育、共に育ち合う教育、学び高め合う学校教育、意欲と指導力のある教職員の確保・育成、県立学校の教育環境の改善、協働と信頼に根ざした学校づくり、子育て・家庭教育への応援、学びを通じた地域の教育力の向上」の8点を挙げています。その中の「学び高め合う学校教育」では、

これからの時代に向き合うことのできる力を獲得する学びの推進

自国の歴史・文化に深い理解を持ち、異なる習慣や文化を持つ人と共に生きていくための資質やコミュニケーションなどの能力を育成することで、国際社会で活躍できる人材を育成します。また、高度情報通信ネットワーク社会において、情報を的確に活用し、興味・関心を広げるとともに、よりよく課題解決できる能力を育てます。さらに、地球全体を視野に入れ、積極的に行動し、環境などに配慮した生活のできる教育に取り組みます。

生き方や社会を学ぶ教育の充実

小・中・高校を通じて系統だったキャリア教育を推進するとともに、企業や地域との連携を一層深め、職場体験やインターンシップ(就業体験)の充実を図るなど、生き方や働くことについて学ぶ教育の総合的な取組みを進めます。また、よき市民となるため、政治参加意識を高め、社会や経済のしくみについて理解を深めるとともに、ボランティア活動などを通じて、積極的に社会とかかわり責任を果たそうとする力を育成します。

(神奈川県教育委員会 2007「かながわ教育ビジョン」p.53より)

と明記され、「情報教育」「環境教育」「キャリア教育」「シチズンシップ教育」等の推進が求められています。



2 研究の目的

神奈川県立総合教育センター（以下、「センター」という。）では、これまでに、情報教育、環境教育、キャリア教育、読解力向上に関する教育、シチズンシップ教育等、「現在求められている教育」に関する研究を数多く行い、それぞれのテーマについて、基本的な考え方や指導上の指針、児童・生徒に育成したい能力（力）や態度、具体的な指導例等を示してきました。そして、それぞれの研究成果は、多くの学校で活用されてきました。

その一方で、「現在求められている教育」が数多くあり、学校現場はその対応に苦慮しているという状況も見受けられます。

例えば、調査研究協力員（小学校教員3名・中学校教員3名）の実践を振り返ってみると、「現在求められている教育」の必要性は分かるものの、その一つひとつに対し、個々に取り組むだけの時間的ゆとりがないことが分かりました。また、個々に取り組むことが難しければ、関連させて取り組むことができないかと考えているが、どの教科、どの単元で関連させて取り組めばよいのかが分からないという課題が浮かび上がってきました。

そこで、まずこれまでにセンターが行ってきた研究等を参考にし、「現在求められている教育」で育成したい能力（力）を整理する必要があると考えました。そして、「現在求められている教育」を関連させた単元の指導計画を開発することにより、教科等における学習指導の充実を図ることを目的としました。



3 本研究の進め方

次の手順で、本研究を進めました。

まず、教育基本法や学校教育法の改正内容、「H20 答申」に記載されている「教育内容に関する主な改善事項」等の学習指導要領の改訂に関する内容や、センターがこれまでに研究してきたテーマや目的、児童・生徒に育成したい能力（力）等、「現在求められている教育」についての確認及び整理を行いました。

また、神奈川県教育委員会が平成 19 年 8 月に策定した「かながわ教育ビジョン」の基本理念や教育目標等について確認しました。

その後、児童・生徒の現状分析を行いました。児童・生徒の現状から判断し、どのような力を付けたいかを検討することが、単元の指導計画を作成する上で必要不可欠だと考えたからです。そこで、調査研究協力員の各学校における児童・生徒の現状に基づき、児童・生徒に「付けたい力」を検討しました。

以下は、その「付けたい力」をまとめたものです。

- ・未来を拓く力（夢を持ち、夢を追いかけ、夢を実現しようとする力）
- ・目標や課題を設定する力
- ・自分のあるがままを受け入れ、より良く生きようとする力
- ・自己を冷静に見つめる力
- ・協働する力
- ・行動する力
- ・他人を思いやる力
- ・職業を理解する力
- ・課題を発見する力
- ・課題を解決する力
- ・想像する力
- ・思考する力
- ・判断する力
- ・情報を活用する力
- ・文章を読みこなす力
- ・聞く力
- ・表現する力（自分の気持ちや思いを文字や言葉に表現する力）
- ・伝え合う力（コミュニケーションする力）等



上の「付けたい力」は、あくまでも自分たちが指導している児童・生徒の現状から判断し、考えたものです。「付けたい力」は、各校の児童・生徒の現状に基づいて検討することが大切です。

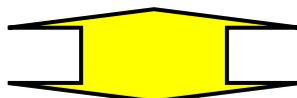
次のような手順で、単元の指導計画を作成することを考えました。

ステップ1

学習指導要領の教科目標や各学年の目標及び内容を確認するとともに、児童・生徒の現状から判断した「主に付けたい力」を検討します。

この場合の「主に付けたい力」とは、児童・生徒に「付けたい力」がたくさんある中で、単元の目標や内容と関連させることのできる、特に育成したい能力（力）のことです。

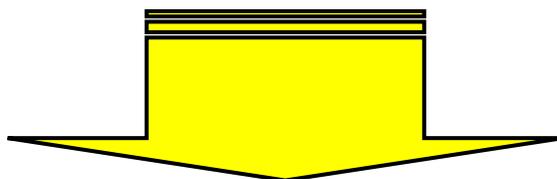
ステップ2



ステップ1を踏まえて、「現在求められている教育」の中のどれと関連させることができるかを検討します。最終的な指導計画にするまでには、「主に付けたい力」と「現在求められている教育」のどれと関連させるかについて、検討を繰り返し行うことが大変重要になります。

なお、第1図では、「情報教育」「環境教育」「キャリア教育」「シチズンシップ教育」「読解力向上に関する教育」を取り上げていますが、これはあくまで例示であり、「現在求められている教育」はこのほかに幾つもあります。「食育」「安全教育」「人権教育」「平和教育」「国際理解教育」等であり、これらが第1図の「そのほかの教育」に当たります。

ステップ3



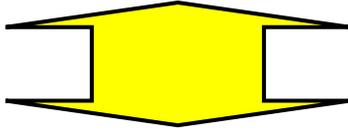
上の手順を踏まえて、単元の指導計画を作成します。その単元の指導計画を作成するときには大切なことは、教材の選定、指導方法、指導形態等について検討することです。

以上の手順を次のページの第1図「指導計画作成モデル」として、示しました。なお、この手順に沿って作成した小学校と中学校の単元の指導計画は、第3章に掲載しています。

ステップ1

学習指導要領の教科目標や
各学年の目標及び内容

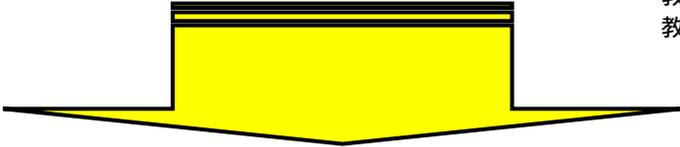
児童・生徒の現状から判断した
「主に付けたい力」



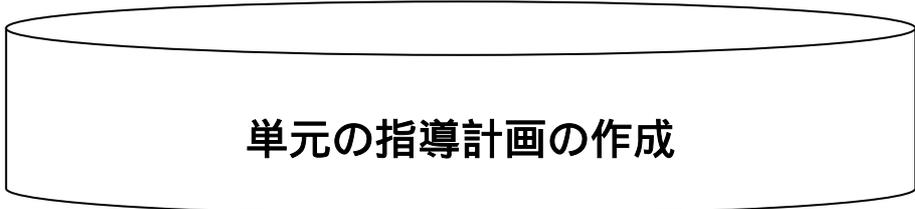
ステップ2



注1
「食育」「安全教育」「人権教育」「平和教育」「国際理解教育」等のことです。



ステップ3



第1図 指導計画作成モデル

「H20 答申」の 25 ページに、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習活動の例が以下のように示されています。

体験から感じ取ったことを表現する

(例) ・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

事実を正確に理解し伝達する

(例) ・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例) ・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす
・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

情報を分析・評価し、論述する

(例) ・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する
・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する
・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする
・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例) ・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする
・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例) ・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う
・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる

(中央教育審議会 2008「H20 答申」p.25 より)

このような学習活動を「現在求められている教育」と関連させていくこともできるでしょう。

例えば、に挙げられている学習活動は、国語や理科等で実践する際に、読解力向上に関する教育や情報教育で育成したい能力(力)と関連させて指導内容を考えることが可能です。



参考 「かながわ教育ビジョン」

「ふれあい教育」から
「心ふれあう しなやかな 人づくり」へ

かながわ教育ビジョン

〔基本理念〕 未来を拓く・創る・生きる
人間力あふれる かながわの人づくり

〔教育目標〕



実現に向けた手だて

今こそ大事な
心ふれあう経験
「ふれあい教育」をさらに進め、
人や社会と深くかかわり、「心ふ
れあう」喜びを十分に味わう

よりよく生きるための
「行動の知」を
教科の学習や様々な体験を生か
し、よりよく生きるために行動で
きる力を身に付ける

『心ふれあう しなやかな 人づくり』

一人ひとりを大切にする柔軟な対応と、教育ビジョンに基づく揺るぎない教育の展開
人々や社会とかかわり、「思いやる心とたくましさ」をもった人の成長に向けた願い

〔次代を担う人づくりをめぐる状況〕

- ・ 少子高齢化の進行
- ・ 国際化と情報化の進展
- ・ 産業・就業構造の変容
- ・ 社会性や規範意識の低下への危惧
- ・ 学力や学習意欲の向上の推進
- ・ 不登校、いじめ問題などの早期解決
- ・ 家庭や地域の教育力の向上

継承・発展

「ふれあい教育」の展開 - 〔基本理念〕個性・共生・共育（ともいく）

家庭・地域・学校で、自然や人とのふれあいによる体験的な活動を重視
かながわの教育における根幹としての位置づけ

〔主な成果と課題〕

県民一体となった教育運動が実現 　ふれあうことから学ぶ大切さを実感
就学前・小・中・高校などの成長に応じた、つながりのある学習の展開が不十分

県民をあげての「騒然たる教育論議」

〔昭和 50 年代の教育をとりまく課題〕

- ・ 受験競争の過熱
- ・ 知識偏重的な教育への批判
- ・ 家庭内・校内暴力の増加 等

（神奈川県教育委員会 2007「かながわ教育ビジョン」p.21 より）

第2章 「現在求められている教育」の紹介

この章では、「H20 答申」で取り上げている教育やこれまでにセンターが研究してきた教育の一部を紹介します。

なお、それぞれの教育についての詳細は、これまでに作成したそれぞれの研究成果物等を見ていただくこととし、ここではそれぞれの教育の目的や育成したい能力（力）等について紹介します。

この章で紹介している教育を掲載しているページは、以下のとおりです。

情報教育 10 ページへ	環境教育 12 ページへ	キャリア教育 14 ページへ
シチズンシップ 教育 16 ページへ	読解力向上に 関する教育 18 ページへ	注2 それぞれの教育 で育成したい 能力（力）等 20 ページへ

注2

「情報教育」「環境教育」「キャリア教育」「シチズンシップ教育」「読解力向上に関する教育」で育成したい能力（力）等を表記したページです。

1 情報教育

(1) 情報教育の目的

文部科学省は、「情報教育に関する手引」の内容の全面的な見直しを行い、平成14年6月に「情報教育の実践と学校の情報化～新『情報教育に関する手引』～」(以下、「情報教育の実践と学校の情報化」という。)をまとめ、その中で以下のように述べています。

情報教育の目的は、後述する「情報活用能力」の育成を通じて、子どもたちが生涯を通して、社会のさまざまな変化に主体的に対応できるための基礎・基本の習得を目指しており、このことは「生きる力」の重要な要素である。さらに情報教育において情報モラル等を扱うことによって育成する「情報社会に参画する態度」は、「豊かな人間性」の部分に密接に関係しており、「生きる力」の育成の上でも、情報教育が非常に重要な役割を担っているということができる。
(文部科学省 2002「情報教育の実践と学校の情報化」p.10より)

(2) 情報教育で育成したい能力(力)等

上述した「情報教育の実践と学校の情報化」には、情報教育で育成を目指している「情報活用能力」について、以下のように整理して書かれています。

(1) 「情報活用の実践力」

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

(2) 「情報の科学的な理解」

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

(3) 「情報社会に参画する態度」

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

(文部科学省 2002「情報教育の実践と学校の情報化」p.12より)

平成18年8月に文部科学省から出された「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について～すべての教科で情報教育を～」(以下、「すべての教科で情報教育を」という。)では、情報活用能力の3観点をさらに次ページのように8要素に分類しています。



情報活用の実践力

課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
受け手の状況などを踏まえた発信・伝達能力

情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための
基礎的な理論や方法の理解

情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響
の理解
情報モラルの必要性や情報に対する責任
望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

3 観点相互の関係を考え、児童生徒の発達段階に応じバランスよく身につけさせることが重要

(文部科学省 2006「すべての教科で情報教育を」p. 2 より)

このように、情報教育では「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」を育成するために、これらの8要素に示された能力(力)や態度などをはぐくむことが大切とされています。

また、情報教育の学習指導に当たっては、次の二つの点に留意することが必要です。

各教科等において、情報機器(IT)を活用しさえすれば情報教育を行った、ということにはならない

情報教育に位置付けられるためには、実際に指導を行う教員が、IT活用が子どもたちの情報活用能力の育成に、どのように資するかを理解した上で、指導することが必要

(文部科学省 2006「すべての教科で情報教育を」p. 1 より)

情報活用能力を構成する8要素のうち、児童・生徒にどの能力(力)等を育成したいのかを明確にして、具体的な学習指導に当たることが大切です。

2 環境教育

(1) 「H20 答申」より

1 ページで紹介したとおり「H20 答申」では、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」の一つとして、次のように持続可能な社会の構築のために各教科等で環境教育に取り組むことが求められています。

地球温暖化、オゾン層の破壊、熱帯林の減少などの地球的規模の環境問題や、都市化、生活様式の変化に伴うゴミの増加、水質汚濁、大気汚染などの都市・生活型公害問題は世界各国共通の課題となっている。その解決に向けて、有限な地球環境の中で、環境負荷を最小限にとどめ、資源の循環を図りながら地球生態系を維持できるよう、一人一人が環境保全に主体的に取り組むようになること、そして、それを支える社会経済の仕組みを整えることにより、持続可能な社会を構築することが強く求められている。

(中央教育審議会 2008「H20 答申」p.67 より)

今後は、現行に引き続き、各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間それぞれの特質等に応じ、環境に関する学習が行われるようにする必要がある。(中略)例えば、社会科、地理歴史科、公民科において、環境、資源・エネルギー問題などの現代社会の諸課題についての学習の充実を図ること、理科において、野外での発見や気付きを学習に生かす自然観察や、「科学技術と人間」や「自然と人間」についての学習の充実を図ること、家庭科、技術・家庭科において、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立、技術と社会・環境とのかかわりに関する内容の改善・充実を図ることなどを行う。さらに、幼児教育の段階から、発達の段階に応じて自然体験活動などの体験活動を引き続き進めていく必要がある。

(中央教育審議会 2008「H20 答申」pp.67-68 より)

(2) 環境教育とは

平成 19 年 3 月に国立教育政策研究所教育課程研究センターから「環境教育指導資料[小学校編]」(以下、「環境教育指導資料」という。)が発行され、環境教育について以下のように記載されています。

環境や環境問題に関心・知識をもち、人間活動と環境とのかかわりについての総合的な理解と認識の上にたって、環境の保全に配慮した望ましい働き掛けのできる技能や思考力、判断力を身に付け、持続可能な社会の構築を目指してよりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成する

(国立教育政策研究所教育課程研究センター
2007「環境教育指導資料」p.6 より)



(3) 環境教育で重視する能力と態度

「環境教育指導資料」には、環境教育で重視する能力と態度が以下のように示されています。

環境教育においては、環境に積極的に働きかけ、環境保全やよりよい環境の創造に主体的に関与できる能力を育成することや、生活環境や地球環境を構成する一員として、環境に対する人間の責任や役割を理解し、積極的に働きかけをする態度を育成することが重要である。そのためには、環境に関する事物・現象に対して興味・関心をもって意欲的にかかわろうとする態度や環境に対する豊かな感受性をはぐくむとともに、例えば、次に挙げるような能力や態度の育成を図ることが重要である。

環境教育で重視する能力と態度（例）

- ・ 課題を発見する力
環境や環境問題に対して進んで働きかけ、自ら課題を発見する力である。
- ・ 計画を立てる力
得られた情報から解決するための予想を立て、その予想に基づいて、観察・実験・調査等の計画を立てる力である。
- ・ 推論する力
環境にかかわる事物・現象についての問題解決の過程で、様々なデータやグラフを解釈したり、事物・現象の原因と結果の関係を考えたりして推論する力である。
- ・ 情報を活用する力
環境や環境問題に関して、情報の収集・選択を行い、分類・整理などの処理を行った上で、相手の状況などを踏まえて発信・伝達する力である。
- ・ 合意を形成しようとする態度
環境や環境問題について自分の考えや意見をもってそれを表現するとともに、相手の立場や考えを理解し、合意を形成しようとする態度である。
- ・ 公正に判断しようとする態度
環境や環境問題について多面的、総合的にとらえようとするとともに、実証的に考え、合理性や客観性を伴った公正な判断をしようとする態度である。
- ・ 主体的に参加し、自ら実践しようとする態度
環境や環境問題に関する情報収集や議論に主体的に参加し、意見や情報の交換を行いながら考えを深め、保全活動等の実践に自ら進んで加わろうとする態度である。

こうした能力や態度は、環境教育において重要であるのみでなく、いずれの教科等においても育成することが重視されているものである。

(国立教育政策研究所教育課程研究センター 2007「環境教育指導資料」p.16より)

このように、環境教育では能力(力)の育成とともに態度の育成も大きな部分を占めています。態度の育成については、相手の立場や考えを理解し、合意形成や公正な判断をすることが重要で、一方的な考えにならないように配慮する必要があります。また、持続可能な社会を構築するために自ら進んで環境保全にかかわる活動に参加する機会を与えることも大切です。

3 キャリア教育

(1) キャリア教育の定義

平成 16 年 1 月に文部科学省から発行された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～」(以下、「協力者会議報告書」という。)に「キャリア教育の定義」について、以下のように明記されています。

児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し，それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育

(文部科学省 2004「協力者会議報告書」p.7より)

さらに、端的に表現すると、以下ようになります。

児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てる教育

(文部科学省 2004「協力者会議報告書」p.7より)

(2) キャリア教育で育成したい能力

旧文部省委託調査研究として職業教育・進路指導研究会がまとめた「職業教育及び進路指導に関する基礎的研究(最終報告)」(平成 10 年)の中で、キャリア教育で育成したい能力については、「キャリア設計」・「キャリア情報探索・活用」・「意思決定」・「人間関係」の 4 能力領域が設定されました。その後、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが平成 14 年 11 月に発行した「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」の中の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」において、職業的(進路)発達にかかわる諸能力として 4 領域 8 能力が示されました。

第 1 表 4 領域 8 能力

領域	能力
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力
意思決定能力	選択能力 課題解決能力

(国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」pp.47-48 を基に作成)



センターでは、平成 17 年 3 月に「キャリア教育推進ハンドブック」を発行し、学校教育でのキャリア発達にかかわる諸能力を第 1 表の 4 領域 8 能力を参考にしながら、人間関係形成能力を自己教育能力と人間関係能力の二つに分け、5 領域 10 能力として第 2 表のとおりに示しました。

これらの諸能力はあくまでも例であり、キャリア教育を通して児童・生徒に育成したい諸能力は、学校や地域、児童・生徒の状況を十分踏まえ、各学校が適切に設定するものです。

第 2 表 キャリア発達にかかわる諸能力

5 領域	領域説明	10能力	能力説明
1 自己教育能力	自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく	自己理解能力	自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力
		自己表現能力	適切な自己表現を通して自己実現を図る能力
2 人間関係能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む	他者理解能力	他者の多様な個性を理解し互いに認め合うことを大切に行動していく能力
		コミュニケーション能力	多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
3 情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択にいかす	情報収集・活用能力	進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
		職業理解能力	様々な体験等への取組を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力
4 将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	役割把握・認識能力	生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
		計画実行能力	目標とすべき自己の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の行動等で実行していく能力
5 意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	選択・決定能力	様々な場面で主体的に考えた上で自らにふさわしい選択・決定をし、その結果を責任を持って受け入れ、適応・対処できる能力
		課題解決能力	希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定し、問題や葛藤を克服しながらその解決に取り組む能力

(センター 2005「キャリア教育推進ハンドブック」p.13より)

4 シチズンシップ教育

(1) シチズンシップの定義

平成18年3月、経済産業省が発行した「シチズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会 報告書」(以下、「報告書」という。)の中で、「シチズンシップ^{注3}の定義」を次のように提示しています。

注3

経済産業省等では「シチズンシップ教育」と表記していますが、ここでは、神奈川県が使っている「シチズンシップ教育」という表記を使用します。

多様な価値観や文化で構成される社会において、個人が自己を守り、自己実現を図るとともに、よりよい社会の実現に寄与するという目的のために、社会の意思決定や運営の過程において、個人としての権利と義務を行使し、多様な関係者と積極的に(アクティブに)関わろうとする資質

(経済産業省 2006「報告書」p.20より)

(2) シチズンシップ教育の目的等

センターでは、平成21年3月に「『シチズンシップ教育』推進のためのガイドブック」(以下、「シチズンシップ教育ガイドブック」という。)を発行し、その中で「報告書」の内容を踏まえて、「シチズンシップ教育の目的」を以下のように整理しました。

市民一人ひとりが、社会の一員として、地域や社会での課題を見付け、その解決やサービス提供に関する企画・検討、決定、実施、評価の過程にかかわることによって、急速に変革する社会の中でも、自分を守ると同時に他者との適切な関係を築き、職に就いて豊かな生活を送り、個性を発揮し、自己実現を行い、さらによりよい社会づくりにかかわるために必要な能力を身に付けること

(センター 2009「シチズンシップ教育ガイドブック」p.2より)

端的に言えば、以下ようになります。

シチズンシップを発揮するために必要な能力や態度を身に付けることを目的とした教育

(センター 2009「シチズンシップ教育ガイドブック」p.5より)

上記の必要な能力とは、意識、知識、スキルに分類され、「報告書」の内容を整理すると以下ようになります。

- シチズンシップを発揮するために必要な三つの能力 -

意識	自分自身、他者とのかかわり、社会への参画に関する意識
知識	公的・共同的、政治的、経済的分野での活動に必要な知識
スキル	社会や他者との関係性の中でいかす際に必要となるスキル

(センター 2009「シチズンシップ教育ガイドブック」p.2より)

(3) シチズンシップを発揮するために必要な能力や態度の全体像

意識	自分自身に関する意識
	向上心、探究心、学習意欲、労働意欲 等
	他者とのかかわりに関する意識
	人権・尊厳の尊重、多様性・異文化の尊重、他者に対する敬意と寛容、相互扶助意識、ボランティア精神 等
知識	社会への参画に関する意識
	法令・規範の遵守、政治への参画、社会に関与し貢献しようとする意識、環境との共生や持続的な発展を考える意識 等
	公的・共同的分野での活動に必要な知識
	教養・文化・歴史、思想・哲学、社会的規範、ユニバーサルデザイン、環境問題、まちづくり、NPO・NGO 等
スキル	政治分野での活動に必要な知識
	わが国の民主主義の仕組み（国民主権、代議制、三権分立、選挙制度、政党など）、国民の権利・義務、基本的な法制度、政府の仕組み（内閣、府省、財政など）、住民運動、住民参加、情報公開、戦争と平和、国際紛争、海外の政治制度 等
	経済分野での活動に必要な知識
	市場原理、景気、資本主義の仕組み、ボーダーレス経済、消費者の権利、労働者の権利、多様な職業の存在と内容、税制、社会保障制度（年金、保険等）、金融・投資・財務、家計、医療・健康（薬物や食を含む）、各種ハラスメント、犯罪・違法行為、CSR（企業の社会的責任） 等
スキル	自己・他者・社会の状態や関係性を客観的・批判的に認識・理解するためのスキル
	自分のことを客観的に認識する力、他者のことを理解する力、ものごとを俯瞰（ふかん）的にとらえ全体を把握する力、ものごとを批判的に見る力 等
	情報や知識を効果的に収集し、正しく理解・判断するためのスキル
	大量の情報の中から必要なものを収集し、効果的な分析を行う力、ICT・メディアリテラシー、価値判断力、論理的思考力、課題を設定する力、計画・構想力 等
スキル	他者とともに社会の中で、自分の意見を表明し、他人の意見を聞き、意思決定し、実行するためのスキル
	プレゼンテーション力、ヒアリング力、ディベート力、リーダーシップ、フォロワーシップ（多様な考え方や価値観の中で、批判的な目でチェック機能を果たしたり、リーダーの意を汲（く）んで行動したり、適切な役割を果たす力）、異なる意見を最終的には集約する力、交渉力、マネジメント力、紛争を解決する力、リスクマネジメント力 等

（センター 2009「シチズンシップ教育ガイドブック」p. 6より）

このように、シチズンシップ教育を「意識」「知識」「スキル」に分けて整理しています。

5 読解力向上に関する教育

(1) 神奈川版：「読解力」とは

センターでは、平成 19 年 3 月に「神奈川版：『読解力』向上のためのガイドブック」(以下、「読解力ガイドブック」という。)を発行し、その中で「テキスト」及び「読解力」について、<神奈川版>として次のように整理しました。

「テキスト」については、児童・生徒が学習活動や実生活で直面するものには多種多様なものがあることから、“書かれたテキスト”を始め、教科等の学習活動において対象とするもの、更には実生活で対象とするものまで広くとらえて、「テキスト」として整理することにしました。

「読解力」に関する行為については、児童・生徒は学習活動や実生活において、多様な「テキスト」に応じて、「読む」以外にも様々な行為を行うことから、「読解力」に関する行為についても広くとらえることとしました。「読む」「聞く」「書く」「話す」に加えて、「見る」「触れる」、音・映像・身体等で「表す」等の多様な行為を含めています。

「読解力」向上に関しては、PISA 調査における「読む行為」のプロセス(側面)は三つですが、文部科学省「読解力向上プログラム」では、「論述」を加えた四つを挙げています。これらを踏まえ、読み取ったり考えたりしたことについて発信することを一つとし、その行為が多様であることから「表現する力」とし、<神奈川版>では「読解力」のための四つの力として整理しました。

(センター 2007「読解力ガイドブック」p.11 より)

なお、「テキスト」については、上で紹介した以外に「読解力ガイドブック」の中で次のように整理しています。

<神奈川版>における「テキスト」

書かれたもの(連続型テキスト、非連続型テキスト)

[文字言語]

話していること [音声言語]

[バーバル]

映像、音楽、音、絵、写真

実物

状況や様子(自然現象、社会事象、風景、ダンス、球技、

表情、パフォーマンス 等)

[ノンバーバル]

(センター 2007「読解力ガイドブック」p.12 より)

[補足説明] バーバルとは「言語的な」、ノンバーバルとは「非言語的な」という意味です。

(2) 読解力向上に関する教育で育成したい力

「読解力」として、児童・生徒に育成したい「四つの力」を「読解力ガイドブック」の13ページに次のように整理しています。

< 神奈川版 > における「四つの力」	
「テキスト」から情報を取り出す力	
「テキスト」を解釈する力	
「テキスト」について熟考・評価する力	
「テキスト」を基に自分の考えを表現する力	

【 「テキスト」から情報を取り出す力】

「テキスト」にある情報を正しく取り出す力です。「テキスト」の理解のためには欠かせない力です。

【 「テキスト」を解釈する力】

「テキスト」にある情報の持つ意味について、「テキスト」全体から総合的に理解したり、推論したりして、解釈する力です。解釈する際の根拠は「テキスト」にある事柄となります。

【 「テキスト」について熟考・評価する力】

解釈したことなどを基に、「テキスト」について、他のテキスト、知識、考え方、経験等を参考に、熟考・評価する力です。

「テキスト」について吟味したり、クリティカル・リーディング（建設的な批判読み）をしたりすることを通して、内容だけでなく形式についても熟考・評価する力です。

【 「テキスト」を基に自分の考えを表現する力】

「テキスト」について、取り出した情報、解釈したこと、熟考・評価したことについて、根拠を示して表現する力です。

なぜそのように考えたのかということについて自分の体験と結び付けて具体的に表現したり、なぜそのように言えるのかということについて根拠を明確にして表現したりする力です。

【「四つの力」に関する行為】

多様な「テキスト」に応じて情報を取り出し、解釈する際には、「読む」「聞く」だけでなく「見る」「触れる」等の多様な行為があります。あわせて、表現する際にも、「書く」「話す」だけでなく、音・映像・身体等で「表す」等の様々な行為があります。

そこで、< 神奈川版 > では、様々な行為を対象としています。

このように読解力を向上させるためには、児童・生徒に様々な行為を通して多様なテキストに触れさせる学習指導を行うことが大切です。

それぞれの教育で育成したい能力（力）等

ここまで紹介してきた五つの教育で児童・生徒に育成したい能力（力）等を整理すると以下のようになります。

情報教育

（3観点8要素）

【情報活用の実践力】

課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
受け手の状況などを踏まえた発信・伝達能力

【情報の科学的な理解】

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

【情報社会に参画する態度】

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
情報モラルの必要性や情報に対する責任
望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

環境教育

- ・課題を発見する力
- ・計画を立てる力
- ・推論する力
- ・情報を活用する力
- ・合意を形成しようとする態度
- ・公正に判断しようとする態度
- ・主体的に参加し、自ら実践しようとする態度

等

キャリア教育

（5領域10能力）

【自己教育能力】

自己理解能力
自己表現能力

【人間関係能力】

他者理解能力
コミュニケーション能力

【情報活用能力】

情報収集・活用能力
職業理解能力

【将来設計能力】

役割把握・認識能力
計画実行能力

【意思決定能力】

選択・決定能力
課題解決能力



シチズンシップ教育

- ・自分のことを客観的に認識する力
- ・他者のことを理解する力
- ・ものごとを俯瞰（ふかん）的にとらえ全体を把握する力
- ・ものごとを批判的に見る力
- ・大量の情報の中から必要なものを収集し、効果的な分析を行う力
- ・ICT・メディアリテラシー
- ・価値判断力
- ・論理的思考力
- ・課題を設定する力
- ・計画・構想力
- ・プレゼンテーション力
- ・ヒアリング力
- ・ディベート力
- ・リーダーシップ
- ・フォロワーシップ
- ・異なる意見を最終的には集約する力
- ・交渉力
- ・マネジメント力
- ・紛争を解決する力
- ・リスクマネジメント力

等

17 ページで紹介した「シチズンシップを發揮するために必要な能力や態度の全体像」の「スキル」の部分を記載しました。

読解力向上に関する教育

「テキスト」から情報を取り出す力

「テキスト」を解釈する力

「テキスト」について熟考・評価する力

「テキスト」を基に自分の考えを表現する力



第3章 実践事例の紹介

ここからは小学校と中学校で行った実践事例を紹介します。教科での取組みですので、単元目標は学習指導要領の各教科の目標・内容に即したものです。その目標や内容に、「現在求められている教育」を関連させて単元の指導計画を作成しました。

この章で紹介している実践事例を掲載しているページは以下のとおりです。

事例A 小学校

国語
第1学年

すてきなことば
を見つけ、みんな
につたえよう

26 ページへ

事例B 小学校

理科
第4学年

空気と水の
ひみつを
見つけよう

30 ページへ

事例C 小学校

理科
第5学年

台風と
気象情報

36 ページへ

事例D 小学校

理科
第5学年

私たちの
气象台

40 ページへ

事例E 中学校

国語
第2学年

効果的な
話し方を
しよう

44 ページへ

事例F 中学校

社会
第3学年

福祉の充実

48 ページへ

事例紹介ページの構成

これより先、26～51 ページで紹介する実践事例の内容は、それぞれ次のように構成しています。

単元の指導計画に関する内容

左側のページ（1 ページ目）

教科名 学年 単元名

学習指導要領の教科目標

単元目標

児童・生徒の現状から判断したこの単元で「主に付けたい力」

関連させた教育

児童・生徒の様子の写真

右側のページ（2 ページ目）

単元の指導計画

「付けたい力」を明記した指導計画にしてあります。

単元の評価規準表（事例 B と F は 3 ページ目に記載）

学習の実際と考察

左側のページ（3 ページ目）

学習の実際（事例 B と F は 3・4 ページ目に記載）

児童・生徒の様子を記載しています。

右側のページ（4 ページ目）

考察（事例 B は 5 ページ目に記載）

関連させた教育を取り入れた指導から分かったことを記載しています。

教科名 学年 単元名

児童・生徒の現状から判断したこの単元で「主に付きたい力」

単元の指導計画

学習指導要領の教科目標

単元目標

関連させた教育

学習の実際

事例A 小学校

国語 第1学年 「すてきなことを見つけ、みんなに知らせよう」

学習指導要領の教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び判断力を養い、国語に対する関心や愛の国語を尊重する態度を育てる。

単元目標

身の周りの事象の中で国語を使って感じることに関心を持ち、自分の考えや気持ちを伝えようとする態度を育て、国語を尊重する態度を育てる。

【関連させた教育】

国語の学習の中で、自分の考えや気持ちを伝えようとする態度を育て、国語を尊重する態度を育てる。

【単元の指導計画】

単元の指導計画の作成 (次のページを参照)

【単元の指導計画】 単元に下線が引かれているのが本単元で主に付きたい力

単元	学習内容	児童の学習活動	評価規準
1	「すてきなこと」を見つけて、友達に知らせよう。	身の周りの事象の中から、見つけたすてきな事象を見つけて知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。
2	「すてきなこと」を見つけて、友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。
3	「すてきなこと」を見つけて、友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。
4	「すてきなこと」を見つけて、友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。
5	「すてきなこと」を見つけて、友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。
6	「すてきなこと」を見つけて、友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。
7	「すてきなこと」を見つけて、友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。

単元の評価規準表

【単元の評価規準表】

国語への関心・意欲・態度	話す・書く能力	聞く能力	読解力	国語についての知識・技能・態度
国語の学習の中で、自分の考えや気持ちを伝えようとする態度を育て、国語を尊重する態度を育てる。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。	自分の感じたことや考えたことを友達に知らせよう。

児童・生徒の様子の写真

考察

【学習の実際】

1年生国語の教科書の中から、「おむすびころりん」を教材に「すてきなことを見つけよう」というテーマで学習を開始した。児童は、既に学習内容は理解しており、好きな言葉を見つけては国語で伝えることができた。そのため、ワークシートに書かれた言葉の中から好きな言葉を見つけて、友達に知らせようという活動を行った。児童は、楽しんでいる様子が見られた。また、友達に知らせようという活動を通して、自分の感じたことや考えたことを友達に知らせようという態度を育て、国語を尊重する態度を育てる。

学習は、おむすびころりんという物語を通して進められた。児童は、おむすびころりんという物語を通して、自分の感じたことや考えたことを友達に知らせようという態度を育て、国語を尊重する態度を育てる。

単元の後半には、教師側から提示した具体例ではなく、身の回りから自然現象の中から児童自身が見つけてきた具体例を他の人に出せる活動を取り入れた。児童は、自分で見つけた具体例を自分で表現することにより、伝えたいことを文章にすることができるようになった。表現方法が豊かになり、文章の量も増えている。

「おむすびころりん」を教材に「すてきなことを見つけよう」というテーマで学習を開始した。児童は、既に学習内容は理解しており、好きな言葉を見つけては国語で伝えることができた。そのため、ワークシートに書かれた言葉の中から好きな言葉を見つけて、友達に知らせようという活動を行った。児童は、楽しんでいる様子が見られた。また、友達に知らせようという活動を通して、自分の感じたことや考えたことを友達に知らせようという態度を育て、国語を尊重する態度を育てる。

【考察】

1年生の児童の様子を見てみると、自分が感じたことや考えたことが友だちに伝わらないことが多く、困っている姿をよく見られる。児童にとって、感じたことや考えたことを自分の言葉で表現することは難しいようである。そこで、感じたことや考えたことを自分で表現する力を育成したいと考えた。

自分で表現する力を育成するには、単に表現するだけでなく、伝える力も必要不可欠である。そこで、センターの先行研究を参考にしながら、読解力向上に関する教育と情報教育を取り入れた指導計画を作成した。

読解力向上に関する教育については、児童が大好きなおむすびころりんを教材(テキスト)にしたことにより、積極的に読解活動を見つけている児童が多く、読解力向上の効果が期待できる。学習意欲の高まりを感じることができた。また、本単元の4時間目以降は、身の回りから自然現象の中から具体例を見つけてきた。すると、休み時間や家に帰ってから伝えたいという思いが強く、おむすびころりんなどの少人数で伝え合う活動を取り入れた結果、相手の言葉から感動的な言葉を発見し出すこともできるようになり、自分で表現する力が育成された。

児童は、自分の身の回りにもあるもののような言葉を使って伝えるかということも考え始め、国語の授業だけでなく、生活科や図工の時間等、様々な授業を工夫するようになり、国語学習の楽しさも実感された。

情報教育については、単元の4時間目以降に児童の身の回りの自然現象から、自分が伝えたいことを見つけてくる学習活動を取り入れたことにより、上記したように実践的に学習を取り組むことができた。また、国語の学習で学んだことをいかし、生活科の「秋を味わおう」の単元でも児童の身の回りの自然現象から情報を集めさせ、それを基に保護書を書いて児童が読む機会をつくった。すると、児童自身が感じたことや考えたことをまとめ、一人ひとりが家と自分の言葉で表現することができた。

このように、「現在進められている教育」を開発することにより、単元の目標や個々の学習活動のねらいがより明確になることが分かった。そして、教科指導の充実を図ることができた。

事例 A 小学校

国語 第1学年 「すてきなことばを見つけ、みんなにつたえよう」

【学習指導要領の教科目標】

- ・国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

【単元目標】

- ・身の回りの事象の中で諸感覚を使って感じたこと(見る・聞く・においをかく・手や足で触れる・味わう・体全体で感じる等)や考えたことを言葉で表し相手に伝える活動を通して、豊かな表現力を身に付ける。

【児童の現状から判断した

この単元で「主に付けたい力」

- ・児童は、自分が感じたことや考えたことを相手に伝えるときに文章ではなく単語で発するため、「何がどうなったのか」「誰がどう思ったのか」など、詳しいことが相手に伝わらないことが多い。そのため困っている様子をよく見掛けるので、自己表現する力を付けさせたいと考えた。
- ・教科書や自然事象等から児童自身が「すてきだと思える言葉」を探させ、その情報を基に考えさせる活動を通して、情報を取り出す力や思考する力・判断する力、自己表現する力の育成を目指す。

【関連させた教育】

情報教育

- ・自然事象の中から、自分が相手に伝えたいことを見付けさせ、それについて感じたことや考えたことを表現させる活動を通して、情報を取り出す力や自己表現する力の育成を目指す。



読解力向上に関する教育

- ・教科書だけではなく、自然事象等からも情報を取り出させ、情報を基に感じたことや考えたことを表現させる活動を通して、情報を取り出す力、思考する力・判断する力、自己表現する力の育成を目指す。

【単元の指導計画】

単元の指導計画の作成
(次のページを参照)



自然事象から獲得した情報を基に、感じたことを発表している様子

【単元の指導計画】 太字に下線が引いてあるものが本単元で「主に付けたい力」

時間	学習内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	児童の学習活動	評価規準 [評価方法]
1 2 3	「すてきなことば」を見付けよう	情報を取り出す力 (物語や詩の中から、気に入った言葉の表現等を見付け出させる。) 自己表現する力 (見付け出した言葉と理由について発表させる。)	・物語や詩を読んで、その中から素敵だと思う言葉を見付ける。 ・見付け出した言葉とその言葉を気に入った理由について発表する。	[観察、ワークシート]
4 5 6	感じたことを言葉で表わそう	情報を取り出す力 (自然事象の中から、自分が相手に伝えたいことを見付け出させる。) 思考する力・判断する力 (どんな言葉を使えばより相手に伝わるかを考えさせる。)	・自分が直接見たことや聞いたこと、においを感じたこと、味わったこと、触って感じたことなどの中で、相手に伝えたいことを見付け出す。 ・どんな言葉を使えば相手に伝わりやすいかを考えながら、言葉に表す。	[観察、ワークシート]
7	感じたことをみんな(クラスの人たち)に伝えよう	自己表現する力 (自分の見付けた言葉の作品を発表させる。) 聞く力 (他の人の言葉の良さや感じ方の良さに気付かせる。)	・できあがった言葉の作品をみんなに発表する。 ・他の人の発表を聞き、どんな言葉を使えば相手に伝わりやすいかに気付く。	[観察、作品]

丸数字は単元の評価規準表に対応

【単元の評価規準表】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言葉についての 知識・理解・技能
物語や詩を読んで、自分の思いや感動を相手に伝えるために、いろいろな言葉による表現を進んで行おうとする。身の回りの自然事象の中から感じ取った自分の思いや感動を言葉で表そうとしている。	気に入った言葉やその言葉を選んだ理由を相手に伝わりやすい言葉で伝えている。身の回りのことから話題を決め、自分が感じたことを相手に伝わりやすい言葉で伝えている。どんな言葉を使えば相手に伝わりやすいかに気を付けて聞いている。	自分が気に入った言葉や表現等を見付け出し、その理由を書いている。自分が相手に伝えたいと思ったことを自分の言葉で表し、書いている。自分が感じたことを相手に伝えるために言葉に気を付けて作品を作っている。	物語や詩の中から自分が気に入った言葉やまねしてみたい言葉を見付け出すことができる。

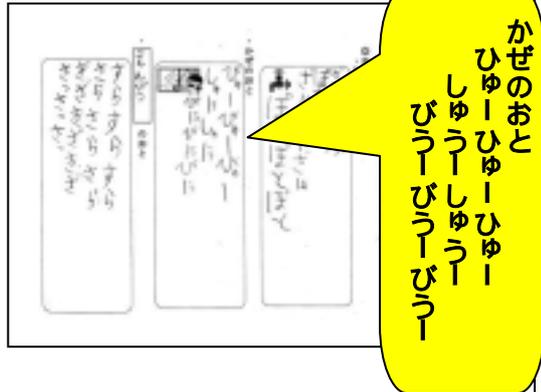
【学習の実際】

1年生国語科の教科書の中から、「おむすびころりん」を教材に「すてきなことばを見つけよう」というテーマで学習を開始した。児童は、既に学習内容は理解しており、好きな言葉を見付けることには抵抗なく入ることができた。そのため、ワークシートに素敵だと思える言葉を幾つも書き並べている児童も多くいた。児童は、楽しみながら素敵だと思える言葉を見付けることができ、リズムのある言葉においては、おむすびが転がっていく様子を動作も入れながら表現していた。

学習は、素敵だと思える言葉を見付けるときは一人ひとりで行い、その見付けた言葉を伝え合う時には、二人組みや三人から四人組みの少人数で行った。

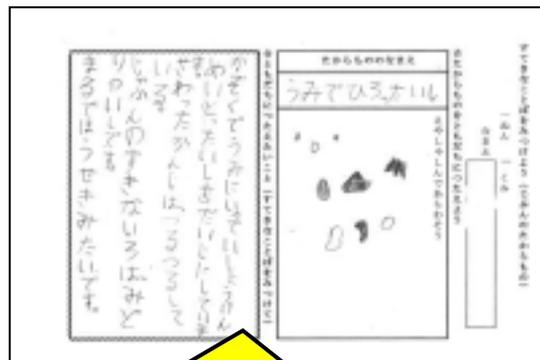
次に、「のはらうた」の詩から言葉遊びを展開した。すると児童は、詩の中にある音を表す言葉やリズムで表せる言葉などを見付け、水の音や風の音などの擬音語を感じたままに表した。言葉を楽しむことで、表現は豊かになった。

その後、特産物の「ひょうたん」を使用した表現活動を行った。諸感覚を通して感じたことを、言葉で表した。児童は不思議そうに「ひょうたん」を見つめ、触ったり、においをかいだり、たたいたりしながら感触を確かめていた。ここでは三人組みで学習を展開し、一人の発表を二人が聞くことで、他の人の発表を聞き、自分の表現に取り入れる児童が増えた。



「ひょうたん」のにおいをかいている様子

単元の後半には、教師側から提示した具体物ではなく、身の回りにある自然事象の中から児童自身が見付けてきた具体物を他の人に伝える活動を取り入れた。児童は、自分で持って来た具体物を自由に表現することにより、伝えたいことを文章にすることができるようになった。表現方法が豊かになり、文章の量も増えている。



「うみでひろったいし」 右側は絵で表現させ、左側は文章で表現させた。
かぞくでうみにいって、いっしょうけんめいといしをだいにしています。さわったかんじは、つるつるしている。じぶんのすきないろは、みどりのいしです。まるで、ほうせきみたいです。

【考察】

1年生の児童の様子を見ていると、自分が感じたことや考えたことが友だちに伝わらないことが多く、困っている姿をよく見掛ける。児童にとって、感じたことや考えたことを自分の言葉で表現することは難しいようである。そこで、感じたことや考えたことを自己表現する力を育成したいと考えた。

自己表現する力を育成するには、単に表現する力だけを付ければよいのではなく、情報を取り出す力や思考する力・判断する力の育成も必要不可欠だと考えた。そこで、センターの先行研究を参考にしながら、読解力向上に関する教育と情報教育を取り入れた指導計画を作成した。

読解力向上に関する教育については、児童が大好きな「おむすびころりん」等を教材（テキスト）にしたことにより、積極的に素敵な言葉を見つけている児童が多く、情報を取り出す力が育成され、学習意欲の高まりを感じることができた。また、本単元の4時間目以降は、身の回りにある自然事象の中から具体物を見付けさせた。すると、休み時間や家に帰ってから伝えたいものを探す児童が増えた。自分が見付けてきた物なので相手に伝えたいという思いが大きくなり、二人組みや三人組みなどの少人数で伝え合う活動を取り入れた結果、相手の言葉から素敵な言葉を見付け出すこともできるようになり、自己表現する力が育成された。

児童は、自分の身の回りにあるもののどのような言葉を使って伝えるかということを考え始め、国語の授業だけでなく、生活科や図工の時間等、様々な時に表現を工夫するようになり、思考する力・判断する力も育成された。

情報教育については、単元の4時間目以降に児童の身の回りの自然事象から、自分が相手に伝えたいことを見付けさせる学習活動を取り入れたことにより、上記したように意欲的に学習に取り組む姿を見取ることができた。また、国語の学習で学んだことをいかし、生活科の「秋を見つけよう」の単元でも児童の身の回りの自然事象から情報を集めさせ、それを基に保護者を招いて発表する機会をつくった。すると、児童自身が感じたことや考えたことをまとめ、一人ひとりが堂々と自分の言葉で発表することができていた。

このように、「現在求められている教育」を関連させることにより、単元の目標や個々の学習活動のねらいがより明確になることが分かった。そして、教科指導の充実を図ることができた。



二人一組になり、感じたことを伝え合っている様子



保護者の方々に発表している様子

事例B 小学校

理科 第4学年 「空気と水のひみつを見つけよう」

【学習指導要領の教科目標】

- ・自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

【単元目標】

- ・空気と水に力を加えたときの現象を比較したり、関係付けたりしながら調べたり、見いだした課題を実験の結果やイメージ図を活用して追究する活動を通して、空気と水の性質についての見方や考え方を養う。

【児童の現状から判断した

この単元で「主に付けたい力」】

- ・児童は、自然事象に対して、自ら課題を見付けることが少なく、自分の考えを发表或し、理由を添えて意見を言うことが苦手である。そのため、**課題を発見する力と表現する力**を付けさせたい。
- ・この単元で取り上げる空気と水は、児童にとって大変身近であるが、日ごろはあまり意識しない。そこで、空気や水の性質を利用した物や職業に気付かせることにより、日常生活との関連を意識させたいと考えた。そのため、**役割を理解する力**の育成を目指す。

【関連させた教育】

キャリア教育

- ・空気と水の特性と日常生活との関連を意識させるために、空気や水の性質を利用した身の回りの物や職業について考えさせることを通して、**役割を理解する力**の育成を目指す。



読解力向上に関する教育

- ・実験等の具体的な活動を通して獲得した情報を基に考えさせ、その後多様な話し合い活動（ペアトークや三人トーク等）を取り入れて意見交換することを通して、**課題を発見する力や表現する力**の育成を目指す。

【単元の指導計画】

単元の指導計画の作成
(次のページを参照)



実験の様子(空気鉄砲に玉をつめている場面)

【単元の指導計画】 太字に下線が引いてあるものが本単元で「主に付けたい力」

時間	学習内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	児童の学習活動	評価規準 [評価方法]
1 2	空気と水で遊ぼう	課題を発見する力 (空気と水で遊ぶことを通して、空気や水の性質についての疑問点を見付けさせる。) 情報を収集する力 (空気と水の性質を利用した物について考えさせるとともに、利用している物を探させる。)	<ul style="list-style-type: none"> 大きなゴムボールを弾ませたり、ビニール袋に空気を集めたり、布をなびかせたりする。また、マヨネーズの容器に空気や水を入れたりして、互いにふれあいながら遊び、分かったことや疑問に思ったことを見付け、友だちと話す。 空気と水の性質を利用した身の回りの物について考え、ノートに書き出す。 	[観察、ノート、付箋紙]
3 4 5	空気鉄砲の秘密を探ろう	思考する力・判断する力 (空気鉄砲を作り、玉を飛ばしながら、筒内の空気の変化を予想させる。) 表現する力 (筒の中の様子を言葉とイメージ図で表現させる。) 役割を理解する力 (空気の性質を利用した身の回りの物や職業について考えさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 空気鉄砲を作り、玉を飛ばす。筒の中の空気をイメージして、空気鉄砲を飛ばすための工夫を考える。 筒の中の様子を言葉とイメージ図で表現する。 空気の性質を利用した身の回りの物や職業について考え、ノートに書き出す。 	[観察、ノート、付箋紙]
6 7	空気と水の性質について考えよう	思考する力・判断する力 (空気と水の圧縮性の違いを比較する中で、空気や水の性質について考えさせる。) 計画を立てる力 (実験計画を立てさせ、必要な物を考え、準備させる。) 役割を理解する力 (空気と水の性質を利用した身の回りの物や職業について考えさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 水と比べながら、空気が縮むことを実験から確かめる。 実験計画を立て、必要な物を準備し、実験を行う。 これまでの活動を振り返るため、学習で分かったことを記したノートや付箋紙で確認する。 空気と水の性質を利用した身の回りの物や職業について考え、ノートに書き出す。 	[観察、ノート、付箋紙]
8 9	空気と水の性質を利用したおもちゃを作ろう	表現する力 (空気と水の性質を利用した自分なりのおもちゃを作らせる。) 役割を理解する力 (空気と水の性質を利用した身の回りの物や職業について考えさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えた設計図を基に、空気と水の性質を使ったおもちゃを作る。 空気と水の性質を利用した身の回りの物や職業について考え、ノートに書き出す。それを発表する。 	[観察、ノート、付箋紙]

丸数字は単元の評価規準表に対応

【単元の評価規準表】

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象について の知識・理解
容器に閉じ込めた空気や水に力を加えることによって生じた現象に関心を持ち、物による性質の違いを意欲的に調べようとしている。 空気と水の性質を利用した身の回りの物を探そうとしている。	空気鉄砲の玉が飛ぶわけを、空気の性質と関係付けて考えている。 空気と水の性質の違いを比較しながら考えている。 空気と水の圧縮性の違いを量と結び付けて考えている。	空気の存在や空気の復元力、筒の中の空気のイメージを表現している。 水の性質を調べるための実験計画を立て、準備している。 空気と水の性質を利用したおもちゃを作っている。	空気は身の回りに存在することを理解している。 空気は圧縮することを理解している。

【学習の実際】

学習課題を発見する場面では、大きなゴムボールに乗ったり、ビニール袋に空気を集めたり、マヨネーズの容器に空気や水を入れたりして遊んだことにより、空気や水の性質について分かったことや疑問に思ったことを見付けることができた児童が多かった。空気や水を使った遊びを通して実感を伴った知識の獲得につながり、この経験が貴重な情報となり、今後の学習に役立った。



大きなゴムボールに乗っている様子

この遊びを通して、空気や水の性質について「分かったこと(事実)」を赤色の付箋紙に、「疑問に思ったこと」を青色の付箋紙に、「多分こうだと考えたこと(予想)」を黄色の付箋紙に書かせた。その後、二人組みで付箋紙に書いた内容について情報交換をさせた。このペアトークでは、自分の考えと同じ点、違う点に気を付けて聞き取らせたことにより、ペアトークの後で互いの付箋紙を交換し合い、パートナーの意見をノートに記入する姿が見られた。



情報交換をしている様子

ノートには、赤色・青色・黄色の付箋紙が貼ってある。

【考察】

この単元において「主に付けたい力」として、**課題を発見する力、表現する力、役割を理解する力**の育成を目指し、**読解力向上に関する教育、キャリア教育**を取り入れた指導計画を作成した。

読解力向上に関する教育については、問題を解決する学習過程において、3色の付箋紙に「分かったこと(事実)・疑問に思ったこと・多分こうだと考えたこと(予想)」を書かせ、その後多様な話し合い活動(ペアトーク・三人トーク・その他)を取り入れた。そのことにより、児童は実験や体験を通じて得られた情報を基に疑問点を出し合うことができ、自らの問題として**課題を発見する力**が育成された。また、「学習の実際」で紹介したワークシートのように、自分の考えを言葉や図で表すことができるようになり、多様な話し合い活動を取り入れたことにより**表現する力**が育成され、空気と水の性質についての理解が深まった。

キャリア教育については、**役割を理解する力**を育成するために、単元を通して空気と水の性質を利用している物や職業について考えさせた。児童からは、「車のエアバックは空気で衝撃を減らすためにしているのだろう」という意見が出され、児童の視点が広がり、日常当たり前に思っていた空気や水の性質について考えるきっかけとなった。また、総合的な学習の時間に福祉について学習したときには、「バスが止まっているときだけ降りやすくなるのは、空気を抜いているのだろう」とバスの昇降時の仕組みを発見し、生活を科学的に考え、学習したことと関連付けて思考・判断することができるようになった。

総合的な学習の時間との横断的な学習として、「異年齢集団」である「なかよし学級」の2年生を招待して「空気と水を使った仕組み」を利用したゲーム大会を開いた。4年生の児童は、準備や当日の運営・片付けなど、張り切って取り組んでいた。日ごろから交流している下級生(2年生)に、学習を通して得た知識を発信する活動を取り入れたことにより、自分の思いを生き生きと伝えている児童の姿が多く見られた。その児童の姿を見た教職員は、児童の**表現する力**が育成されていると感じた。

4年生の児童が、理科の授業で学習してきた空気や水の性質を利用したゲーム大会を2年生に開催することにより、内面にどのような変化が起きるかを調べるために、単元の事前と事後でアンケート調査を行った。その結果、次のページに掲載したとおり、「今の自分が好き」や「クラスの中には、自分のいいところを分かってくれる友だちがいる」と答えた児童が大幅に増加していることが分かった。「クラスの人が自分の話を聞いてくれるから」や「2年生が喜ぶ姿を見て、私自身もとてもうれしかった。いっしょうけんめいに準備してよかった」等の感想から分かるとおり、クラスの人や2年生との交流を通して、相手に対して何らかの貢献ができたと感じた児童が多かったためにこのようなアンケート結果になったと考えられる。このように「現在求められている教育」を関連させたことにより、「主に付けたい力」の育成だけではなく、**自己肯定感の育成**にもつながった。



ゲーム方法について2年生に説明している様子

【アンケート集計結果（対象者 25 人）】

質問内容	事前	事後
今の自分が好きですか？	好き 4 人（16%）	好き 11 人（44%）
	好きと少し好きの 合計 14 人（56%）	好きと少し好きの 合計 18 人（72%）
何かに失敗した子がいたら 助けてあげようと思 いますか？	思う 6 人（24%）	思う 13 人（52%）
	思うと少し思うの 合計 15 人（60%）	思うと少し思うの 合計 21 人（84%）
クラスの中には、自分の いいところを分かって くれる友だちがいますか？	いる 5 人（20%）	いる 15 人（60%）
	いると少しいるの 合計 9 人（36%）	いると少しいるの 合計 20 人（80%）



学習課題について話し合っ
ている様子



事例C 小学校

理科 第5学年 「台風と気象情報」

【学習指導要領の教科目標】

- ・自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

【単元目標】

- ・台風による強風や大雨、それに伴う災害など、台風の進路や天気の変化について、新聞記事や本、テレビ、インターネットなどを活用して調べ、台風がもたらす降雨は短期間で多量になることをとらえることができるようにする。

【児童の現状から判断した

この単元で「主に付けたい力」】

- ・児童は、台風という言葉は知っていても、「台風がどこで発生するのか」や「どうして発生するのか」ということについては、明確に答えることができない。そこで、台風についての情報を新聞記事や本、テレビ、インターネットによる人工衛星の雲画像などから情報を収集させ、台風に関する理解につなげたい。また、台風の接近時期や降雨量が昔に比べ変化していることに気付かせ、その原因について考えさせたい。そのため、この単元では、**情報を収集する力**と収集した情報を基に**思考する力・判断する力**の育成を目指す。

【関連させた教育】

情報教育

- ・台風の進路や天気の変化等の情報を得るためには、情報機器を活用することが有効である。多くの情報の中から必要な情報を収集させる活動を通して、**情報を収集する力**の育成を目指す。



環境教育

- ・台風の接近時期や降雨量が昔に比べ変化していることに気付かせ、その原因について考えさせる学習活動を通し、**思考する力・判断する力**の育成を目指す。

読解力向上に関する教育

- ・台風の進路や天気の変化等を予想するために、情報を解釈し、熟考・評価することを通して、**思考する力・判断する力**の育成を目指す。

【単元の指導計画】

単元の指導計画の作成
(次のページを参照)



PCを使用して情報を集めている様子

【単元の指導計画】 太字に下線が引いてあるものは本単元で「主に付けたい力」

時間	学習内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	児童の学習活動	評価規準 [評価方法]
1	台風って何だろう	課題を発見する力 (台風に関する疑問点を考えさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 台風に関して知っていることを、過去の経験を基に発表する。 台風はなぜ発生するのかなど、台風に関する疑問点を班で出し合い、調べたいことを決定する。 	[観察、ノート]
2	台風に関する疑問点を調べよう	<u>情報を収集する力</u> (インターネットや新聞などを使って、台風に関する情報を集めさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに台風について疑問に思ったことをインターネットや新聞などから調べる。 調べて分かったことを班内で出し合い、情報を整理する。 	[観察、ノート]
3	台風に関して分かったことを発表しよう	表現する力 (台風に関して分かったことを班ごとに発表させる。) <u>思考する力・判断する力</u> (台風の進み方と天気の変化について考えさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思って調べたことを班ごとに発表する。 人工衛星の雲画像などから、台風の進み方と天気の変化について考える。 	[観察、ノート]
4	台風の備えについて知ろう	<u>思考する力・判断する力</u> (台風の被害と備えを関連付けて考えさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 台風の被害を知り、台風に対する備えについて考える。 考えたことを隣の人に伝え、意見交換する。 台風が近づいてきたときの備えについて知る。 	[観察、ノート]
5	台風の接近時期の変化等について知ろう	<u>思考する力・判断する力</u> (台風の接近時期や降雨量が昔に比べ変化している原因について考えさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 台風の接近時期や降雨量が昔と比べ変化している原因について考える。 原因として考えられることを隣の人に伝え、意見交換する。 環境問題が自分たちの生活に影響を与えていることを知る。 	[観察、ノート]

丸数字は単元の評価規準表に対応

【単元の評価規準表】

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象についての 知識・理解
台風による天気の変化に関心を持ち、進んで調べたり、発言したりしている。	資料に基づいて、台風の進路と天気の変化の関連について考えている。 台風の接近時期や降雨量が昔と比べ変化している原因について考えている。	台風に関する資料を収集し、情報を整理している。 整理した情報を聞いている人に分かりやすく伝えている。	台風特有の動きや、台風による災害などについて理解している。

【学習の実際】

児童に台風の発生時期や発生場所について質問したところ、なかなか答えが出なかった。このことから、児童は自分たちが台風について知っているようで知らないということに気付き、いろいろ知りたいという興味・関心がうまれてきた。そこで、台風についての疑問を個々に出させ、その疑問について班で協力して調べさせた。児童から出された疑問点は、以下のとおりである。

《児童から出された疑問点》

- ・なぜ、台風というのか？
- ・台風は、なぜ南から来るのか？
- ・「台風の日」の中は、なぜ風がないのか？
- ・教科書に出ている写真を見ると台風の雲は渦を巻いているが、なぜ渦を巻いているのか？ 等

児童は、台風に関する新聞記事やインターネットによる人工衛星の雲画像などを参考に、それぞれの疑問点について調べ始めた。

最初、インターネットで台風について調べたときは、台風に関する情報があまりに多く、疑問点に関する情報をすぐに見付け出すことができずに苦労していたが、キーワード検索の仕方を理解すると、「台風の発生場所」や「台風の日」等に関する情報を素早く取り出すことができるようになり、疑問点を解消することにつながった。

「台風の備えについて知ろう」では、台風の被害として知っていることとして

「洪水」を挙げる児童が多く、「洪水が起きそうな場所には、事前に『どのう』を積むことが大切である」等の意見も出された。また、台風の経年変化を調べているときに、「台風の時期がずれている」ことや「雨量が増えている」ことについて気付いた児童があり、環境問題との関連についての話題に広がっていた。

環境問題については、社会科や家庭科の学習でも触れているので、児童の関心は高い。児童は、テレビやインターネット、家庭での会話から得た情報を基に、「台風が日本に来るのは7月から9月頃であるが、地球温暖化の影響のために10月に日本に接近する台風が昔に比べ多くなっている」「昔の台風と比べ、今の台風は降雨量が多く、地球環境が変化しているらしい」など、積極的に発言する姿が見られた。



インターネットで検索している様子

【考察】

この単元において「主に付けたい力」として、情報を収集する力と思考する力・判断する力の育成を目指し、読解力向上に関する教育、情報教育、環境教育を取り入れた指導計画を作成した。

読解力向上に関する教育については、新聞記事やインターネットなどから情報を主体的に収集させた結果、「学習の実際」で述べたように、児童は必要な情報を収集するのに最初は苦労したが、最終的には収集できるようになり、その情報を解釈し、熟考・評価することによって、台風に関する疑問点を解消することができた。この点に関して、情報教育と関連させて取り組んだことが効果を上げたと言える。なぜならば、教師が情報教育の「情報活用の実践力」の中にある「必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造」することを意識した授業実践を行い、テキストとして教科書や資料集だけではなく、新聞記事やインターネットから情報を収集させたからである。最初は疑問点を解決することのできる情報を得ることができなかったが、そのことを通して児童は必要な情報を得るためにはどうしたらよいかを真剣に考えるようになった。その後、キーワード検索の仕方を理解すると、疑問点を解決するために意欲的に情報を集め、必要な情報か不必要な情報かを判断する力が育成された。もし、教師が最初から児童に疑問点をすぐに解決させるために必要な情報を与えていたのであれば、このような力は育成されなかったと思われる。

読解力向上に関する教育と情報教育を関連させたことにより、情報を収集する力や思考する力・判断する力を育成するのに大変役立った。

環境教育については、小学校第5学年では社会科や理科、それに家庭科などでも組み入れやすく、今回の単元においても児童は違和感なく台風と地球

環境との関連について考えることができた。「学習の実態」で紹介した発言をきっかけとして、児童の関心は環境問題に広がった。これは、今までに社会科や家庭科の学習で環境問題について触れていたことの成果である。このように、環境教育と関連させることにより、児童の視野が広がり、科学的な見方や考え方を養うことに通じると感じた。

なお、今回台風の学習をしているときに、ちょうど台風が関東地方に接近し、学校が休校になったこともあり、児童は台風がもたらす降雨は短期間で多量になることについて、実感を伴って理解することができた。



児童が描いた「台風の目」の断面図

事例D 小学校

理科 第5学年 「私たちの気象台」

【学習指導要領の教科目標】

- ・自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

【単元目標】

- ・晴れや曇り、雨の日に、1日の気温の変化を調べ、天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあることをとらえる。また、天気は気象情報などを使って予想することができることを知り、生活にいかす。

【児童の現状から判断した

この単元で「主に付けたい力」】

- ・児童は、自分の考えを書くことはできるが、書いたことを相手に伝えることは苦手である。それは、自分が書いた内容に自信が持てないために、発言に対して消極的になっているからである。そこで、児童が自分の書いた内容に自信を持てるようになるためには、本やインターネットで調べるだけでなく、家族や地域の人たちから直接取材をすることが重要だと考えた。そして、そこで得た情報を基に考えさせ、発表させる活動を通して、**情報を活用する力、思考する力、判断する力、職業を理解する力、表現する力**の育成を目指す。

【関連させた教育】

情報教育

- ・情報を主体的に収集させ、その情報を活用して、明日の天気を予想させる。このような学習活動を通して、**情報を活用する力**の育成を目指す。



キャリア教育

- ・「働くことと天気とのかかわりを知ろう」という課題で、家族や地域の人たちへの取材活動を行わせ、天気を予想することの大切さに気付かせるとともに、**職業を理解する力**や**表現する力**の育成を目指す。

読解力向上に関する教育

- ・天気を予想するためには、情報を解釈し、熟考・評価することが重要であり、学習活動を通して**思考する力**・**判断する力**の育成を目指す。

【単元の指導計画】

単元の指導計画の作成
(次のページを参照)



発表練習をしている様子

【単元の指導計画】 太字に下線が引いてあるものは本単元で「主に付けたい力」

時間	学習内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	児童の学習活動	評価規準 [評価方法]
1	天気と暮らしのかかわりを知ろう	課題を発見する力 (天気を予想しなければ、生活に支障をきたすことに気付かせる。)	・天気は自分たちの生活と深いかかわりがあり、天気を予想することが生活に役立つことを知る。	[観察、ノート]
2	天気によってどんな違いがあるのだろうか	思考する力・判断する力 (天気によってどんな違いがあるのかを考えさせる。)	・晴れや曇り、雨の日など、それぞれの天気によってどんな違いがあるのかを考える。	[観察、ノート]
3 4 5 6	天気について分かったことを発表しよう	情報を収集する力 (実際に1日の気温の変化について調べたり、雲の動きを観察したり、パソコンや本などを使って天気に関する情報を集めさせたりする。) 表現する力 (天気について分かったことを発表させる。)	・前単元から続けている「お天気日誌」から、1日の気温の変化について、分かったことをノートに書き出す。 ・実際に雲の動きを観察する。 ・パソコンや本などを使って、天気に関する情報を集める。 ・天気について分かったことを班で発表する。	[観察、ノート、発表資料]
7 8	明日の天気を予想してみよう	情報を活用する力 (これまでに収集した情報を活用して、明日の天気について予想させる。)	・自分たちが収集した情報を活用して、明日の天気を予想する。 ・天気を予想する上で大切なことを知る。	[観察、ノート]
9 10	働くことと天気とのかかわりを知ろう	情報を活用する力 (取材した情報を活用して、働くことと天気とのかかわりについてまとめさせる。) 職業を理解する力 (職業と天気とのかかわりについて理解させる。) 表現する力 (班ごとに発表させる。)	・働くことと天気とのかかわりについて、家族や地域の人たちから取材してきたことを班内で報告し合う。 ・班ごとに天気とのかかわりがあることが分かった職業についてまとめる。 ・班ごとにまとめたものをクラス全体に発表する。	[観察、ノート、発表資料]

丸数字は単元の評価規準表に対応

【単元の評価規準表】

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象についての 知識・理解
天気と自分たちの生活とのかかわりに興味・関心を持ち、学習課題を見付けようとする。 天気によって違いがあることを考えようとする。 天気に関する情報を集めて、自分の住んでいる地域の天気の変化を調べようとする。 働くことと天気とのかかわりについて、調べようとする。	天気によって生じる気温や雲の動きなどの様々な違いを考えられている。 天気と1日の気温の変化を結び付けて考えられている。 気象情報や地域の言い伝えを基に明日の天気を予想している。	1日の気温の変化を調べ、測定した気温を記録し、まとめている。 気象情報を活用して、天気の変化の様子を調べ、まとめている。	天気によって、1日の気温の変化に違いがあることが分かっている。 天気はおよそ西から東へ変化していくことが分かっている。 働くことと天気とのかかわりについて、理解している。

【学習の実際】

約2週間、8時25分の気温を計測してお天気日誌に記入し、そこから1時間後の気温を予想し、1時間後に再び計測し、さらにまたその1時間後に予想するという活動を15時25分まで行った。児童は、最初は自分の席で1時間後の気温を予想していたが、それでは予想しづらいということが分かると、しだいに外を見たり、実際にベランダに出たりして予想をするようになった。また、予想を始めて数日後には、「今日は雨だから、この間の雨の日と一緒にかもしれない」と過去のデータを参考にして予想する児童も出てきた。

「晴れ・曇り・雨」の天気では、何が違うかについて考えさせた。出た意見は、「雲・気温・風・空の色・生き物の生態・体調や気分」の計六つであった。その後、3人ずつの班になり、班の中でどの三つを調べるかを決め、班の一人ひとりが違うものを調べた。気温を調べた児童は、お天気日誌やインターネット等から得た情報を活用していた。また、生き物の生態や体調・気分を調べた班は、インターネットや本から得た「ことわざ」等の情報を活用して、まとめていた。また、他者に調べたものを分かりやすく伝えるためにまとめ方や見せ方も工夫していた。

「働くことと天気とのかかわりを知ろう」という内容で、「家族や地域の人たちに取材をしてくるように」と、課題を与えた。取材をした相手は、次のとおりである。

《クラス人数 31人》

- ・家族に取材を行った児童 13人（約42%）
- ・家族以外に取材を行った児童 18人（約58%）

《取材をした相手の職業》

- ・新聞配達員
- ・花屋の店員
- ・デパートの店員
- ・コンビニエンスストアの店員
- ・和菓子屋の店員
- ・学校の先生
- ・病院の看護師
- ・交番勤務の警察官



取材で得た情報を基に、発表原稿を作成した。和菓子屋の店員にインタビューした班は、「天気によって、お客さんの人数が大きく変わるので、天気予報を見てお菓子を作る量を変えているそうです。また、天気予報で雨の予報が出たときには、買ってもらった物が雨に濡れないようにビニール袋を準備しておくことを知りました」や、新聞配達員にインタビューした班は、「新聞配達員の人たちも、天気には注意しているそうです。それは、雨が降りそうな日や雨の日は、新聞をビニールに入れて配達しているからです。新聞にビニールを包む機械を“ロールフェルト”と言って、新聞一部を包むのに1秒しかかからないそうです。実際見せてもらい、凄く速かったです」等の発表が続いた。

どの班も貴重な情報を収集することができ、自信を持って発表していた。

お天気日誌

時刻	天気	予想気温	実際の気温
8:25	☀		17.6℃
9:25	☀	18.7℃	19.4℃
10:25	☀	20.8℃	22℃
11:25	☀	22.1℃	23.4℃
12:25	☀	23.3℃	24.7℃
13:25	☀	24.1℃	24.5℃
14:25	☀	25.2℃	23.4℃
15:25	☀	25.4℃	22.9℃

実際の気温

17.6
19.4
22
23.4
24.7
24.5
23.4
22.9

空を見て気付いたこと

空に雲が、あまりなかった。お昼は、雲が少しでした。

【考察】

主に付けたい力として、情報を活用する力、思考する力・判断する力、職業を理解する力、表現する力の育成を目指し、読解力向上に関する教育、情報教育、キャリア教育の視点を取り入れた指導計画を作成した。

読解力向上に関する教育の視点を取り入れた結果、お天気日誌のデータやインターネットを利用して検索した結果から必要な情報を取り出し、その情報を解釈することにより、晴れの日には朝夕と日中の気温の差が大きく、雨の日には気温がほとんど変化しないことなどについて気付くようになった。その結果、実際の天気予報のように、過去のデータを活用しながら天気を予想することができるようになり、自分が得た情報から1時間後の気温を予想するという科学的に思考する力・判断する力を養うことができた。

次に情報教育に関しては、前単元「台風と気象情報」で取り扱った「情報活用の実践力」の「必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造」を意識した授業実践を継続して行った。目的に合うように情報を収集することができるように、教科書や資料集だけではなく、お天気日誌を継続して付けさせ、その情報を活用させた。また、校庭に行き、雲の動きを観察させたり、図書室で必要な本を探させた。その他、PC教室で情報機器を活用し、目的に合うような情報を主体的に収集させた。このような活動を通して、「学習の実際」に紹介したように調べるテーマに応じて情報を収集し、どの情報を活用するか比較・検討することができ、情報を活用する力の育成につながった。

キャリア教育に関しては、「働くことと天気とのかかわりを知ろう」の学習を通して、児童はいろいろな職業の人から取材することができた。そのため、授業後のアンケートでは、今回の授業で「職業について理解がとても深まった」と答えた児童は12人(約39%)、「まあまあ深まった」と答えた児童は19人(約61%)、「深まらなかった」と答えた児童はいなかった。このアンケート結果から分かるとおり、職業を理解する力が育成された。また、発表場面では、取材したことを基に自信を持って発表することができただけでなく、発表している児童に対して何人もが質問し、発表者がその質問に対して堂々と答えることができていることが分かった。

「現在求められている教育」を関連させて指導計画を作成したことにより、児童の学習意欲が高まり、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」や情報を活用する力、思考する力・判断する力、表現する力、職業を理解する力の育成につながった。



教室に設置してある気温計



「今は、何度かな？」
「晴れているので、
気温が高いのではないかな!？」

教室に設置してある気温計から、気温を調べている児童の様子

事例E 中学校

国語 第2学年 「効果的な話し方をしよう」

【学習指導要領の教科目標】

- ・国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

【単元目標】

- ・社会生活の中から話題を決め、話すための材料を多様な方法で集め整理する。
- ・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの意見を検討して自分の考えを広げる。

【生徒の現状から判断した

この単元で「主に付けたい力」】

- ・生徒が、自分の思いを他者にうまく伝えることができずに、困っている場面をよく見掛ける。そこで、この単元では、「相手」を意識し、「何を伝えるか」を考えさせることで、効果的な話し方を学ばせ、**表現する力**の育成を目指す。
- ・総合的な学習の時間に実施する職場体験活動と関連させた話題を提示し、身近な話題で学習意欲を高め、**課題を解決する力**の育成を目指す。

【関連させた教育】

キャリア教育

- ・総合的な学習の時間に職場体験活動の事前学習をしており、その学習との関連を図り、生徒にとって身近な題材を提示することを通して、**課題を解決する力**の育成を目指す。



読解力向上に関する教育

- ・市の観光協会が発行している「観光協会便り」等から必要な情報を取り出し、その情報を基にプレゼンテーションの内容を考え、班ごとにまとめたものを発表する学習活動を通して、**課題を解決する力**や**表現する力**の育成を目指す。

【単元の指導計画】

単元の指導計画の作成
(次のページを参照)



付箋紙を模造紙に貼り、KJ法でまとめている様子

【単元の指導計画】 太字に下線が引いてあるものは本単元で「主に付けたい力」

時間	学習内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	生徒の学習活動	評価規準 [評価方法]
1	効果的なプレゼンテーションをするためのポイントを知ろう	情報を取り出す力 (テキストから必要な情報を意識して取り出させる。)	・教科書を読み、プレゼンテーションについて基本的な知識を得る。	[観察、ノート、定期テスト]
2	課題に沿って、プレゼンテーションを作成しよう	課題を解決する力 (市で働いている人々の立場から、自分たちの市の良いところについて考えさせる。) 伝え合う力 (班内で意見を交流させながら、まとめさせる。)	・自分たちの市の良いところはどこか、見所は何かなどを挙げ、売り込みのアイデアを考え提案する。 ・ブレインストーミングでそれぞれの意見を出し合う。 ・班として役割分担を決めプレゼンテーション資料を作成する。	[観察、プレゼンテーション資料]
3	プレゼンテーションの改善点について話し合おう	表現する力 (班内で効果的な発表について検討させる。)	・班の発表について気付いたことを書き出し、効果的な発表になるように話し合う。	[観察、ノート]
4	プレゼンテーションを行い、相互評価と自己評価をしよう	表現する力 (課題について、班ごとに発表させる。) 他者を理解する力 (相互評価を通して、他者の良い点について気付かせる。)	・班ごとにプレゼンテーションを行う。 ・他の班の発表を聞き、良いと思う点を記録する。	[観察、プレゼンテーション資料、ワークシート]

丸数字は単元の評価規準表に対応

【単元の評価規準表】

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
市の良いところを紹介しようという課題に関心を持ち、市で働く人々の立場になり、紹介文を考えている。	自分の意見を述べるとともに、他者の意見との違いを聞き取っている。 話の内容や目的に応じた語句を選択し、話の順序や話し方を考えて、印象に残る発表になるように話し合っている。 話し方の工夫やその効果について考えながら聞いている。	言葉の意味や使い方に注意し、相手に効果的に伝えるための話し方を理解している。 聞き手を意識して、話し方や話の組み立て、資料などを工夫し、説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。

【学習の実際】

本単元の1時間目には、プレゼンテーションの目的や効果的なプレゼンテーションをするためのポイントについて、「姿勢(どういう気持ちで)」「内容(何を)」「伝え方(どのように伝えるか)」の3点を学習した。また、ブレインストーミングや出されたアイデアをカードや付箋紙に書くなどして整理するKJ法などについても学習した。

2時間目には、1時間目に学習した内容を活用し、生徒に「市の良いところを紹介しよう」という課題を提示し、市の観光協会が発行している「観光協会便り」を配付した。すると、生徒たちは、熱心にその配付資料を見ながら、課題について考え始めた。

次に、一人ひとりが考えた市の良いところを付箋紙に書き出し、その付箋紙を班ごとに模造紙に貼り出した。その後、前時に学習したKJ法を用いて、出た意見をグループ分けした。生徒たちは、和やかな雰囲気の中で、一人ひとりが考えた市の良いところを出し合った。生徒たちは、教師からの「市で働く人々の立場になって考えてみよう」という投げ掛けを受け、中学生としての視点からだけでなく、市で働く人々の視点からも考え、話し合うことができた。

その後、KJ法でまとめたものを用いてプレゼンテーションの練習を行い、プレゼンテーションの改善点について話し合った。どの班も効果的なプレゼンテーションを行うためにはどの部分を改善したらよいかについて、真剣に話し合っていた。

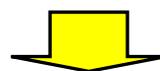
本単元の最後の時間には、班ごとにプレゼンテーションを行い、他の班の発表を聞き、良いと思う点を相互評価し合った。



付箋紙に書き出したものを模造紙に貼っている様子



KJ法でまとめている様子



プレゼンテーションの改善点について話し合っている様子

【考察】

この単元では、主に**表現する力**と**課題を解決する力**の育成を目指し、**読解力向上に関する教育**と**キャリア教育**を関連させた指導計画を作成した。

指導計画を作成するときに工夫した点は、生徒に提示する課題を「市の良いところを紹介しよう」とした点と、市の観光協会が発行している「観光協会便り」をテキストとして配付した点である。

「市の良いところを紹介しよう」という課題に対する生徒の関心は高く、意欲的に学習に取り組んでいた。また、総合的な学習の時間に行っている職場体験活動の事前学習と関連させたことにより、例えば漁業に携わっている人の立場から考えている生徒や、観光名所近くの施設で働いている人の立場から考えている生徒がいた。その他、テキストとして配付した「観光協会便り」に関心を寄せている生徒が多く、その後テキストの情報を活用しながら課題に取り組んでおり、与えるテキストの大切さを感じた。

理由：
班の発表の自己採点 B
なるべく原稿を見ないようにしたかったけれど、やはり時間が少なかったので暗記できないところが多かったです。また、クイズはもっと時間を長くすればよかったと思う。写真をたくさん使ったので、みんなに伝わったと思う。

理由：
班の準備の自己採点 A

理由：
班員全員が意見を出し合えた。最初に行ったブレーストリーミングとKJ法では、どの班よりも意見が出せたので、それぞれの考えを総合して行動できました。準備で分担したから早くできた。

プレゼンテーションの個人評価 (生徒のワークシートより)

上のワークシートからも分かるとおり、ブレーストリーミングやKJ法が意見をまとめるのに有効であることを理解しており、**課題を解決する力**が身に付いている様子がうかがえた。また、効果的なプレゼンテーションになるように互いの考えを出し合い、試行錯誤を繰り返しながらプレゼンテーションを作成していた。漁業や農業、観光関係で働いている人の立場等、いろいろな立場からの意見が出され、生徒たちの思考が広がっているのを感じることができた。

一人ひとりが考えたことを班の中で出し合うことにより、言葉に対する感覚が磨かれていく学習活動になった。

右の写真は、プレゼンテーションをしている様子であるが、発表資料のどの部分について説明しているのかが分かるように、写真を指し、聞いている人たちが分かりやすいように発表していた。本単元を学習する前と比べ、明らかに生徒たちの**表現する力**は高まっており、このような指導計画を作成することの重要性を実感した。



プレゼンテーションをしている様子

事例F 中学校

社会 第3学年 「福祉の充実」

【学習指導要領の教科目標】

・広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

【単元目標】

・憲法に記された「生存権」を具体的に保障するために、国や地方公共団体が国民のために行っている社会保障の仕組みや内容について理解するとともに、身近な施設や地方公共団体の活動などを調べる中で、福祉政策を実現するための財政の役割や、少子高齢社会の中での課題について、具体的に指摘することができる。

【生徒の現状から判断した

この単元で「主に付けたい力」

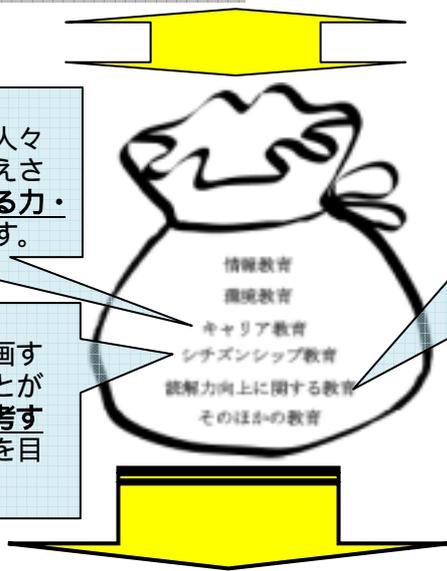
- ・生徒たちの多くは授業にまじめに取り組むが、学習態度は受け身である。与えられた知識は覚えようとするが、資料から必要な情報を取り出し、その資料を基に自分自身の考えを構築し、表現する力が十分に付いていない。そこで、資料から**情報を取り出す力**や、その資料を基に思考したことを**表現する力**の育成を目指す。
- ・自分たちが暮らす地域の中にも様々な形で、人々が暮らしやすいようにする工夫がなされていることに気付いていない生徒が多い。そのような点から本単元では、自分が町長になった場合を想定し、社会資本を整備するという課題に取り組むことで、地域に住む様々な人々の立場を考慮し、**思考する力・判断する力**を育成する。

【関連させた教育】

キャリア教育
 ・町に住む人々や町で働く人々など、様々な立場から考えさせることにより、**思考する力・判断する力**の育成を目指す。

シチズンシップ教育
 ・生徒自身が地域社会に参画するという意識を育てることができる課題を提示し、**思考する力・判断する力**の育成を目指す。

読解力向上に関する教育
 ・町の総合長期プラン、教科書、資料集等から必要な情報を取り出し、その情報を基に与えられた課題について考え、班ごとにまとめたものを発表する学習活動を通して、**情報を取り出す力と表現する力**の育成を目指す。



【単元の指導計画】

単元の指導計画の作成
 (次のページを参照)



課題を解決するために話し合いをしている様子

【単元の指導計画】 太字に下線が引いてあるものは本単元で「主に付けたい力」

時間	学習内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	生徒の学習活動	評価規準 [評価方法]
1	身近な福祉施設を調べよう	情報を取り出す力 (資料から、福祉施設の工夫されている点を見付け出させる。) 他者を理解する力 (地域には、いろいろな立場の人が住んでいることに気付かせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 資料や自らの経験から、福祉施設の工夫されている点を見付け出す。 地域に住んでいる人のことを考え、どのような福祉施設ならば利用しやすいかを考える。 	[観察、ノート]
2	社会保障制度の概要について知ろう	情報を活用する力 (身の回りの社会保障制度について、資料や過去の経験を基に発表させる。)	<ul style="list-style-type: none"> 保険証を使って通院したことや、予防接種を受診した経験など、社会保障制度を利用した経験について発表する。 憲法で保障されている「生存権」を具現化するための社会保障制度について、その仕組みと内容の概要を理解する。 	[観察、ノート]
3	社会保障制度の課題について知ろう	情報を取り出す力 (社会保障費の移り変わりの資料から少子高齢社会の課題について指摘させる。) 思考する力・判断する力 (将来の日本の社会保障の在り方について考えさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の進展に伴い、社会保障費も増大し、税負担が増大することを資料から読み取る。 これからの日本の社会保障の在り方について、税負担と福祉とのバランスを踏まえて、自分なりの考えを発表する。 	[観察、ノート]
4 5	社会資本の整備「暮らしやすい町」を提案しよう	課題を発見する力 (町に住む人々や町で働く人々の立場から町を見直し、課題を見付けさせる。) 思考する力・判断する力 (町に必要な社会資本について考えさせる。) コミュニケーションする力 (自分の考えを持つと同時に、相手の意見を聞き、自分の考えを修正し、より建設的な意見を出させる。)	<ul style="list-style-type: none"> 「自分が町長ならば、どのように暮らしやすい町づくりを行うか」という課題に対し、町に住む人々や町で働く人々にとって、暮らしやすい町であるためには、どこが課題であるか見付ける。 町の中で整備する必要がある社会資本について、住民の立場や行政の立場から、必要度や財政とのバランスから順位を付け、その理由を考える。 自分の考えの根拠を相手に伝えるとともに、相手の意見を聞き、自分の考えとすり合わせるができるように話し合う。 	[観察、ノート]
6	「暮らしやすい町」の発表をしよう	表現する力 (調べてまとめた内容について、班ごとに発表させる。) 伝え合う力 (他の班の良い点や改善点を指摘させる。)	<ul style="list-style-type: none"> 前時までにまとめた内容を、班ごとに分担・協力しながら発表する。 他の班の発表を聞き、良い点や改善すべき点などをアドバイスする。 	[観察、ノート、発表用資料等]

丸数字は単元の評価規準表に対応

【単元の評価規準表】

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての 知識・理解
身近な福祉施設について、様々な資料や自分の経験から、すべての人に優しく使いやすく工夫されている部分を意欲的に調べている。 「暮らしやすい町」に興味を持ち、自分なりの考えを持ち、意欲的に取り組んでいる。 自分たちで考えた「暮らしやすい町」について、班員と協力して分かりやすく発表している。	少子高齢社会を迎え、福祉の充実と税負担とのバランスはどのようにあるべきか、多面的・多角的に考察している。 「暮らしやすい町」を実現するにあたり、どのような社会資本から整備する必要があるか、自分なりの根拠を基に、優先順位を考察している。	少子高齢社会の進展が社会保障費を圧迫し、勤労者層の税負担が増加することを資料より具体的に指摘している。 与えられた資料から、自分なりの「暮らしやすい町」に必要な社会資本について、根拠を示して表現している。	我が国の社会保障の仕組みと内容について知るとともに、社会保険が社会保障費の大部分を占めることを理解している。 これからの社会資本の在り方について、高齢者、障害者にも配慮した施設などを、財政面を考慮しながら作る必要があることを理解している。

【学習の実際】

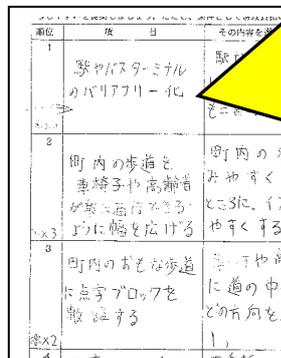
4時間目から6時間目までは、既習事項を基にして、「自分が町長であったら、どのように暮らしやすい町づくりを行うか」という課題を生徒に提示し、町の地図や町が作成している総合長期プラン等をテキストとしながら、課題に取り組みさせた。

生徒は、課題について個人で考え、その考えたことを班になって出し合った。右下のワークシートのように、生徒一人ひとりが自分の考えをしっかりと書けていた。

自分たちが生活している町が題材だったため、生徒は意見も出しやすく、授業者が予想していた以上の生活に密着した意見が多く見られた。例えば、「駅型保育園を設置する」という意見では、「最近女性の人も多く働いているので、駅の近くに保育園があれば、仕事帰りにすぐに子どもを迎えに行け、そうすると安心して生活することができ、住民も嬉しいと思うからです」という理由を書いていた。



考えたことをワークシートに記入している様子



順位1
駅やバスターミナルのバリアフリー化

順位2
町内の歩道と車椅子や高齢者が楽に通行できるように幅を広げる

順位3
町内のおもな歩道に点字ブロックを敷設する

生徒のワークシートより

また、「港を活用し、朝市広場などのイベントができる場を作る」という意見では、「自分たちの町でとれる魚を新鮮に食べることができるし、多くの人と交流することができ、町の憩いの場にもなると思うから」等の理由を書いていた。

今まではほとんど発言することがなかった生徒も、班の人たちと活発に意見交換をしながら発表内容をまとめ、全員の前で自分の考えをしっかりと発表することができていた。



和やかな雰囲気の中で、話し合いが行われていた

【考察】

この単元において「主に付けたい力」として、**情報を取り出す力、思考する力・判断する力、表現する力**の育成を目指し、**読解力向上に関する教育、キャリア教育、シチズンシップ教育**を取り入れ指導計画を作成した。

読解力向上に関する教育については、**情報を取り出す力**を育成するために、教科書や資料集、それに町が作成している総合長期プラン等をテキストとして与え、そのテキストの中から必要な情報を取り出させた。その後、そのテキストを基に「暮らしやすい町」について考え、考えたことを班内で意見交換し、班ごとにまとめたことを発表する場面を設けた。その結果、学習の実際で紹介したとおり全員の前で自分の考えを発表することができた生徒が多く、**表現する力**が育成されていることが分かった。

キャリア教育については、3時間目までに習得した知識を活用して、町に住む人々のことや町で働いている人々のことも考えさせながら課題に取り組みさせた。その結果、前ページのワークシートのように、様々な立場の人のことを考慮した意見が出され、生徒の**思考する力・判断する力**が育成される様子を見取ることができた。また、「町長」の立場で考えさせたことにより、生徒の課題への興味・関心は高まり、積極的に課題に取り組みしていた。町の財政を考慮して財政負担が少ない項目から選び、重点政策について考えるなど、町長の行政担当者としての責任を想定した意見もあった。

今回の課題は、自分の住んでいる地域の様々な人の立場を考慮し、より良い町づくりへと提案をすることであったが、このような学習を続けることで、地域生活の向上への視点に気付き、より良い社会を目指そうとする意識が養われると実感することができた。**シチズンシップ教育**の根本である地域に関心を持ち、自分の生活を見直すことができた生徒が多くいた。

後日、町役場の担当者に、生徒が考えた「暮らしやすい町」の提案を伝えることができた。その結果、生徒は自分たちの意見が町の政策にいかされるかもしれないという感想を持ち、社会的責任を実感することができた。

「現在求められている教育」を関連させたことにより、**思考する力・判断する力等**を養うことができただけでなく、**地域社会に参画しようという意識も育っている**。

第4章 研究のまとめ

1 実践を通して得られたこと

(1) 「現在求められている教育」を関連させることができました

3ページに掲載したとおり、調査研究協力員の実践を振り返ってみると、「現在求められている教育」の必要性は分かるものの、その一つひとつに対し、個々に取り組むだけの時間的ゆとりがないことが分かりました。また、個々に取り組むことが難しければ、関連させて取り組むことができないかと考えているが、どの教科・どの単元で関連させて取り組めばよいのかが分からないという課題が浮かび上がってきました。そこで、本研究では、「現在求められている教育」を関連させるための「指導計画作成モデル」を開発しました。

この「指導計画作成モデル」の重要な点は、児童・生徒の現状から判断した「主に付けたい力」を検討することにより、それぞれの教育で育成したい能力（力）と関連させることができる点です。

本研究を通して、それぞれの教育をどのように関連させればよいのかが分かり、どの教科、どの単元で実践すればよいのかが理解でき、関連させる教育について適切な選択ができるようになりました。その結果、児童・生徒に「主に付けたい力」を効果的に育成することができるようになりました。

本研究の「指導計画作成モデル」の手順に従うことにより、「現在求められている教育」を関連させた単元の指導計画を作成することができ、教科指導の充実を図ることができました。

本冊子に紹介した事例以後、自ら進んで「現在求められている教育」を関連させた授業実践をしている調査研究協力員もいます。

(2) 授業改善につながりました

事例Dでは、単元「私たちの气象台」の指導計画を本冊子の41ページのように作成しました。1時間目から6時間目までは、読解力向上に関する教育と情報教育を関連させて、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を目指しました。その後の7・8時間目は、6時間目までに習得した知識・技能を活用して明日の天気を予想させ、9・10時間目はキャリア教育の視点を取り入れた「働くことと天気とのかかわりを知ろう」という学習内容にし、児童に「働くことと天気とのかかわりについて、家族や地域の人たちから取材すること」という課題を提示しました。

その結果、発表までには全員が家族や地域の人たちから取材を行うことができ、取材活動で得た情報を基にし、班で協力して発表原稿を作成しました。その後、結果を互いに発表し合うことにより、働くことと天気とのかかわりについて理解を深めただけではなく、指導計画を作成する前に考えたねらいどおり、情報を活用する力、思考する力・判断する力、表現する力、職業を理解する力の育成が図られました。

この事例では、習得した知識・技能を活用して授業を行ったことにより、思考力・判断力・表現力等の育成につながり、習得した知識・技能の定着に役立ちました。

事例Fでは、単元「福祉の充実」の指導計画を本冊子の49ページのように作成しました。1時間目から3時間目までは、読解力向上に関する教育の視点を取り入れて、福祉政策を実現するための財政の役割や、少子高齢社会での課題等について具体的に指摘できることを目指しました。

その後の4時間目から6時間目までは、3時間目までに習得した知識・技能を活用して、キャリア教育とシチズンシップ教育を関連させた「暮らしやすい町を提案しよう」という学習内容にし、町の事業計画を基に作成した資料を生徒に配付し、「自分が町長ならば、どのように暮らしやすい町づくりを行うか」という課題を提示しました。

その結果、与えられた課題に対し、生徒一人ひとりが自分の考えを書くことができました。また、その考えを班の人たちと意見交換することにより思考が広がり、日ごろはほとんど発言することのなかった生徒が積極的に発言し、意欲的に学習に取り組むことができました。



班の人たちと意見交換している様子

このような実践事例から、「現在求められている教育」を関連させることにより、「知識・技能を教え込む授業」から「知識・技能を活用する授業」への転換をもたらし、授業改善が図られました。



(3) 言語活動の充実が図られました

今回の六つの事例を以下のように整理してみました。すると、六つの事例を通して明らかになったことは、どの教科やどの単元においても読解力向上に関する教育は取り入れやすく、いずれの事例においても言語活動の充実につながるということです。

	事例A	事例B	事例C	事例D	事例E	事例F
情報教育						
環境教育						
キャリア教育						
シチズンシップ教育						
読解力向上に関する教育						

事例Bでは、3色の付箋紙を活用した授業実践を行いました。遊びや実験等で得た情報を基に、空気や水の性質について「分かったこと(事実)」を赤色の付箋紙に、「疑問に思ったこと」を青色の付箋紙に、「多分こうだと考えたこと(予想)」を黄色の付箋紙に書き、それを他者と意見交換したことにより、児童の思考は深まり、33ページのワークシートのように、自分の考えを文章だけでなく図や絵も使いながら表現できるようになりました。



児童のノート(何枚も付箋紙が貼ってあります)

事例Eでは、効果的なプレゼンテーションになるよう互いの考えを出し合い、試行錯誤を繰り返しながら工夫する中で、言葉に対する感覚が磨かれ、日ごろよりも言葉を選んで発言するようになった生徒が多くいました。このように、言語活動の充実につながる事が分かりました。

読解力向上に関する教育で育成したい力は19ページで紹介したとおり、『「テキスト」から情報を取り出す力、「テキスト」を解釈する力、「テキスト」について熟考・評価する力、「テキスト」を基に自分の考えを表現する力』の「四つの力」です。この力は、ほかの教育でも求められている力であり、ほかの教育の中にも共通する部分が多くあります。調査研究協力員と単元の指導計画を作成する中で、読解力向上に関する教育は情報教育、キャリア教育等と関連させやすいということが分かりました。

(4)「心ふれあう」学習活動につながりました

2 ページで述べたように、神奈川県教育委員会は平成 19 年 8 月に「かながわ教育ビジョン」を策定し、「心ふれあう しなやかな 人づくり」を提唱しています。

本冊子に紹介した 6 事例の中には、人々や社会とかかわる機会を意図的に作り、「心ふれあう」実践につなげたものもあります。

事例 A は、国語の授業で習得した表現方法を用いて、生活科の「秋をみつけよう」につなげ、保護者を招いて発表する機会をつくりました。その結果、児童自身が感じたことや考えたことをまとめ、一人ひとりが堂々と自分の言葉で発表することができ、その発表を聞いていた保護者の方々と「心ふれあう」体験をすることができました。

事例 B では、総合的な学習の時間において、理科の授業で作成した「空気と水の性質を利用したおもちゃ」を活用したゲーム大会を、2 年生を招待して行いました。ゲーム大会を通して下級生とふれあうことにより、下級生の喜ぶ顔を見て「人に受け入れられた」という満足感を得ることのできた児童が多くいました。その結果、35 ページに掲載したアンケート結果のとおり、「今の自分が好き」「クラスの中には、自分のいいところを分かってくれる友だちがいる」と答えた児童が大幅に増加しています。このような「心ふれあう」学習活動を通して、児童・生徒の自己肯定感がはぐくまれ、他者を思いやる気持ちの育成につながります。



2 年生にゲームのやり方を教えている様子

事例 F では、生徒が住んでいる町の地図や町が作成している総合長期プラン等をテキストとしながら課題に取り組ませたことにより、生徒の課題への興味・関心が高まり、積極的に課題に取り組む姿が見られました。また、町役場の担当者に、生徒が考えた「暮らしやすい町」の提案を伝えたことにより、生徒は自分たちの意見が町の政策にいかされるかもしれないという感想を持ちました。そして、学習したことが社会と関連していることを学び、社会とのかかわりを実感することができました。

このような実践事例から、「現在求められている教育」を関連させることにより、「心ふれあう」学習活動につなげることができることも分りました。



2 今後の各学校での実践に向けて

(1) 年間を通じたカリキュラムの作成が必要です

今回の研究では、「情報教育」「環境教育」「キャリア教育」「シチズンシップ教育」「読解力向上に関する教育」を取り上げましたが、これはあくまでも例示であり、「現在求められている教育」はほかに幾つもあります。例えば、「食育」「安全教育」「人権教育」「平和教育」「国際理解教育」等です。これらの教育も、本冊子の6ページに掲載した「指導計画作成モデル」のステップ2に組み込んで考えることにより、同様に単元の指導計画を作成することができます。

今回の研究では、「現在求められている教育」を関連させた単元の指導計画を作成し、実施することにより教科指導の充実を図ることができる等の成果につながることが分かりました。

今後は、「現在求められている教育」を充実して実践するためには、一部の単元や一部の教科、一部の学年だけで行うのではなく、学校全体で年間を通じたカリキュラムを作成することが必要になります。

また、年間を通じたカリキュラムを基に、小学校であれば6年間を見通したカリキュラムを作成し、その後中学校との連携を図ることが望まれます。

(2) 校内研究の充実が欠かせません

「現在求められている教育」の目的や理念、育成したい能力(力)や態度等を理解していなければ、本当の意味でその教育を推進することはできません。そのためには、それぞれの教育を教職員が十分理解する必要があります。そこで重要になるのが校内研究です。それぞれの学校で、校内研究は行われていますが、この校内研究の中で、計画的に学習する機会を作り、教職員の共通理解を図って、他の教科等と連携して取り組めるように考慮することが重要になります。

また、本研究の調査研究協力員は小学校と中学校の教職員に担当していただいたことにより、小学校と中学校の教職員が意見交換する大変よい機会になりました。現在、県内では、校内研究会において小学校と中学校の教職員が意見交換する機会を作っている学校もあります。そのような校内研究会の持ち方も、校内研究の充実を図る上で大変意味のあることだと言えます。



第5章 資料編

学習指導案の様式

本研究で用いている学習指導案は、次の項目から成り立っています。

本研究では、児童・生徒の現状から判断した付けたい力に基づき関連させる教育を検討し、単元の指導計画を作成していますので、この点についてより詳しい表現を行うことができるように、〔 〕部に本研究特有の書式を用いています。

学習指導案

- 1 学年
- 2 教科名
- 3 教科目標
- 4 単元名
- 5 単元目標

児童・生徒の現状から判断したこの単元で「主に付けたい力」を表記します。

〔 6 児童・生徒の現状から判断したこの単元で「主に付けたい力」 〕

〔 7 関連させる教育 〕

関連させる教育を表記します。

8 単元の指導計画

(1) 単元の時間数

(2) 単元の評価規準表 (評価観点は小学校理科のもの)

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象について の知識・理解

(3) 単元の指導計画 太字で下線が引いてあるものは本単元で「主に付けたい力」

時間	学習内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	児童の学習活動	指導上の留意点	評価規準			
					関	思	技	知
1								
2								
:								

「付けたい力」と教師の指導内容を表記します。

丸数字は単元の評価規準表に対応、太枠内が本時の学習

9 本時の学習(単元の 時間目)

(1) 本時の目標

(2) 準備物

(3) 本時の学習評価

「付けたい力」と教師の指導内容を表記します。

過程	「付けたい力」 (教師の指導内容)	学習活動の流れ	指導上の留意点	評価規準 [評価方法]
導入				
展開				
まとめ				

(4) 本時の学習評価

【自然事象への関心・意欲・態度】

学習活動における具体的評価規準	
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況例	
「努力を要する」状況(C)と評価した児童・生徒への手だて	

科学的な思考、観察・実験の技能・表現、自然事象についての知識・理解も同様

例として、事例Dの学習指導案を60ページから64ページまで掲載しますが、その他の事例についてはセンターのホームページ(<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>)で閲覧できます。

学習指導案の例

1 学年 第5学年

2 教科名 理科

3 教科目標

自然に親しみ、見通しをもって観察，実験などを行い，問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに，自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り，科学的な見方や考え方を養う。

4 単元名 「私たちの気象台」

5 単元目標

晴れや曇り、雨の日に、1日の気温の変化を調べ、天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあることをとらえるようにする。また、天気は気象情報などを使って予想することができることを知り、生活にいかす。

6 児童・生徒の現状から判断したこの単元で「主に付けたい力」

児童は、自分の考えを書くことはできるが、書いたことを相手に伝えることは苦手である。それは、自分が書いた内容に自信が持てないために、発言に対して消極的になっているからである。そこで、児童が自分の書いた内容に自信を持てるようになるためには、本やインターネットで調べるだけでなく、家族や地域の人たちから直接取材をすることが重要だと考えた。そして、そこで得た情報を基に考えさせ、発表させる活動を通して、情報を活用する力、思考する力・判断する力、表現する力、職業を理解する力の育成を目指す。

7 関連させる教育

情報教育

情報を主体的に収集させ、その情報を活用して、明日の天気を予想させる。このような学習活動を通して、情報を活用する力の育成を目指す。

キャリア教育

「働くことと天気とのかかわりを知ろう」という課題で、家族や地域の人たちへの取材活動を行わせ、天気を予想することの大切さに気付かせるとともに、職業を理解する力や表現する力の育成を目指す。

読解力向上に関する教育

天気を予想するためには、情報を解釈し、熟考・評価することが重要であり、学習活動を通して思考する力・判断する力の育成を目指す。

8 単元の指導計画

(1) 単元の時間数 10 時間扱い

(2) 単元の評価規準表

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然事象についての 知識・理解
<p>天気と自分たちの生活とのかかわりに興味・関心を持ち、学習課題を見付けようとする。</p> <p>天気によって違いがあることを考えようとする。</p> <p>天気に関する情報を集めて、自分の住んでいる地域の天気の変化を調べようとする。</p> <p>働くことと天気とのかかわりについて、調べようとする。</p>	<p>天気によって生じる気温や雲の動きなどの様々な違いを考えている。</p> <p>天気と1日の気温の変化を結び付けて考えている。</p> <p>気象情報や地域の言い伝えを基に明日の天気を予想している。</p>	<p>1日の気温の変化の仕方を調べ、測定した気温を記録し、まとめている。</p> <p>気象情報を活用して、天気の変化の様子を調べ、まとめている。</p>	<p>天気によって、1日の気温の変化に違いがあることが分かっている。</p> <p>天気はおよそ西から東へ変化していくことが分かっている。</p> <p>働くことと天気とのかかわりについて、理解している。</p>

(3) 単元の指導計画 太字で下線が引いてあるものは本単元で「主に付けたい力」

時間	学習 内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	児童の学習活動	指導上の留意点	評価規準			
					関	思	技	知
1	天気と暮らしのかかわりを知ろう	課題を発見する力 (天気を予想しなければ、生活に支障をきたすことに気付かせる。)	・天気は自分たちの生活と深いかかわりがあり、天気を予想することが生活に役立つことを知る。	・いろいろな人が天気を気にしながら生活していることを意識させる。 ・自分たちも天気を予想してみたいと関心を持たせる。				
2	天気によってどんな違いがあるのだろうか	思考する力・ 判断する力 (天気によってどんな違いがあるのかを考えさせる。)	・晴れや曇り、雨の日など、それぞれの天気によってどんな違いがあるのかを考える。	・雲、雨、雷、気温、ことわざなど、何について調べてみたいかを考えさせる。				

3 4 5 6	天気について分かったことを発表しよう	情報を収集する力 (実際に1日の気温の変化について調べたり、雲の動きを観察したり、パソコンや本などを使って天気に関する情報を集めさせる。) 表現する力 (天気について分かったことを発表させる。)	<ul style="list-style-type: none"> 前単元から続けている「お天気日誌」から、1日の気温の変化について、分かったことをノートに書き出す。 実際に雲の動きを観察する。 パソコンや本などを使って、天気に関する情報を集める。 天気について分かったことを班で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お天気日誌」を活用する。 天気によって1日の気温の変化があることに気付かせる。 何が原因で、天気が変わるのかに気付けるようにする。 発表を聞く態度についてについても、意識させる。 			
7 8	明日の天気を予想してみよう	情報を活用する力 (これまでに収集した情報を活用して、明日の天気について予想させる。)	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが収集した情報を活用して、明日の天気を予想する。 天気を予想する上で大切なことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 雲は西から東へ動いており、天気も西から東へ変化していることを確認する。 天気に関することわざがあることを知る。 			
9 10	働くことと天気とのかかわりを知ろう	情報を活用する力 (取材した情報を活用して、働くことと天気とのかかわりについてまとめさせる。) 職業を理解する力 (職業と天気とのかかわりについて理解させる。) 表現する力 (班ごとに発表させる。)	<ul style="list-style-type: none"> 働くことと天気とのかかわりについて、家族や地域の人たちから取材してきたことを班内で報告し合う。 班ごとに天気とのかかわりがあることが分かった職業についてまとめる。 班ごとにまとめたものをクラス全体に発表する。 働くことと天気とのかかわりについて分かったことを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の授業で稲作作りをしていたので、社会の授業で聞いた農家の人の話を思い出させる。 事前に宿題として、家族や地域の人たちから実際に話を聞いてくるように指示を出しておく。 			

丸数字は単元の評価規準表に対応、太枠内が本時の学習

9 本時の学習

(1) 本時の目標

働くことと天気とのかかわりについて知ることにより、気象情報を生活に活用することの大切さについて気付かせる。

(2) 準備物

画用紙、マジック

(3) 本時の展開(9、10時間目)

過程	「付けたい力」 (教師の指導内容)	児童の学習活動	指導上の留意点	評価規準 [評価方法]
導入	情報を活用する力 (取材した情報を活用して、働くことと天気とのかかわりについてまとめさせる。)	働くことと天気とのかかわりについて、家族や地域の人たちから取材してきたことを班内で報告し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、新聞配達の人から話を聞いてきたよ。 ・私は、駅前の派出所にいる警察官から話を聞いてきたわ。 ・ぼくは、お母さんから話を聞き、職業と天気とのかかわりについていろいろ分かったよ。 </div>	社会の授業で稲作学習をしていたので、社会の授業で聞いた農家の人の話を思い出させる。 事前に宿題として、職業と天気とのかかわりについて家族や地域の人たちから実際に話を聞いてくるように指示を出しておく。	【関心・意欲・態度】 働くことと天気とのかかわりについて、調べようとする。[ノート、観察]
展開	職業を理解する力 (職業と天気のかかわりについて理解させる。) 表現する力 (班ごとに発表させる。)	班ごとに天気とのかかわりがあることが分かった職業についてまとめる。 発表できるように、班ごとに役割分担を決める。 班ごとにまとめたものをクラス全体に発表する。	まとめ作業を通して、働くことと天気とのかかわりについて気付かせる。 聞く側の立場になってまとめを行うよう、声掛けをする。 発表を聞いて、分かったことを自分のノートに記録させる。	【知識・理解】 働くことと天気とのかかわりについて、理解している。[ノート、観察、発表資料]
まとめ		働くことと天気とのかかわりについて分かったことを整理する。		

点線内が予想される児童の発言

(4) 本時の学習評価

【自然事象への関心・意欲・態度】

学習活動における具体の評価 規準	働くことと天気とのかかわりについて、調べようとする。
「十分満足できる」状況(A) と判断した具体的状況例	働くことと天気とのかかわりについて、様々な職種から実際に取材し、調べようとする。
「努力を要する」状況(C) と評価した児童への手だて	家族や地域の人たちの働いている様子を思い出させ、取材できる人がいないかを確認する。

【自然事象についての知識・理解】

学習活動における具体の評価 規準	働くことと天気とのかかわりについて、理解している。
「十分満足できる」状況(A) と判断した具体的状況例	働くことと天気とのかかわりについて実生活と結び付けて理解している。
「努力を要する」状況(C) と評価した児童への手だて	グループの人の発言を思い出させ、働くことと天気とのかかわりについて、改めて考えさせる。

引用・参考文献

《引用文献》

- 神奈川県教育委員会 2007 「かながわ教育ビジョン」p.21、p.53
- 神奈川県立総合教育センター 2005 「キャリア教育推進ハンドブック」p.13
- 神奈川県立総合教育センター 2007 「神奈川版：『読解力』向上のためのガイドブック」
p.11、p.12、p.13
- 神奈川県立総合教育センター 2009 「『シチズンシップ教育』推進のためのガイドブック」
p.2、p.5、p.6
- 経済産業省 2006 「シチズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会
報告書」p.20 http://www.meti.go.jp/press/20060330003/citizenship-houkokusho_honpen-set.pdf (URLは2010年1月に取得)
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育
の推進について(調査研究報告書)」pp.47-48 <http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/sinro/1hobun.pdf> (URLは2010年1月に取得)
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2007 「環境教育指導資料[小学校編]」p.6、
p.16 <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidou/shiryu01/kankyo02.pdf> (URLは2010年1月に取得)
- 職業教育・進路指導研究会 1998 「職業教育及び進路指導に関する基礎的研究(最終報告)」
p.95 <http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/20kyariasiryu/20kyariasiryu.hp/4-02.pdf>
(URLは2010年1月に取得)
- 中央教育審議会 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導
要領等の改善について(答申)」p.25、pp.67-68 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/news/20080117.pdf (URLは2010年1月に取得)
- 文部科学省 2002「情報教育の実践と学校の情報化～新『情報教育に関する手引』～」p.10、
p.12 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706.htm (URLは2010年1月に取得)
- 文部科学省 2004 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童
生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～」p.7 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002/010.pdf (URLは2010年1月に取得)
- 文部科学省 2006 「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について～すべ
ての教科で情報教育を～」p.1、p.2 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/08/06082512/001.pdf (URLは2010年1月に取得)

《参考文献》

神奈川県立総合教育センター 2007 「小・中学校の教員のためのより良い学校づくりガイドブック～カリキュラム・マネジメントの推進～」

神奈川県立総合教育センター 2008 「『問題解決能力』育成のためのガイドブック～『習得・活用・探究』への授業づくり～」

神奈川県立総合教育センター 2008 「情報教育推進ガイドブック」

神奈川県立総合教育センター 2009 「『E S Dを踏まえた環境教育』推進ガイドブック～今までの学習指導を見直してみよう～」

神奈川県立総合教育センター 2009 「平成 20 年度研究指定校共同研究事業（小学校・中学校『学びが広がるキャリア教育』」

『「現在求められている教育」を関連させた学習指導』の作成関係者

<助言者>

所 属	職 名	氏 名
桐蔭横浜大学	教 授	谷田部 玲生

<調査研究協力員>

所 属	職 名	氏 名
大和市立草柳小学校	総括教諭	井上 和美
伊勢原市立伊勢原小学校	教 諭	長谷川 絵里子
小田原市立千代小学校	総括教諭	久保寺 仁
逗子市立久木中学校	総括教諭	古屋 淳
二宮町立二宮西中学校	教 諭	松本 雅志
厚木市立玉川中学校	教 諭	佐々木 規雄

<神奈川県立総合教育センター>

所 属	職 名	氏 名
カリキュラム支援課	指導主事	金子 憲勝
カリキュラム支援課	指導主事	渡辺 良勝
カリキュラム支援課	教育指導専門員	日野 孝一

「現在求められている教育」を関連させた学習指導

発 行 平成 22 年 3 月

発行者 安藤 正幸

発行所 神奈川県立総合教育センター

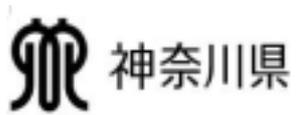
〒251-0871 藤沢市善行 7 - 1 - 1

電話 (0466)81-1659 (カリキュラム支援課 直通)

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

本冊子は、ホームページで閲覧できます。

再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター

カリキュラムセンター（善行庁舎）

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466)81-0188

FAX (0466)84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

教育相談センター（亀井野庁舎）

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466)81-8521

FAX (0466)83-4500

